

## 2 地域の意向

### (1) 市民、事業所アンケートの結果

身の回りの環境に対する市民の意見や感想、環境保全に関わる意識や環境保全活動への参加状況について、本市に在住する市民及び事業所を対象にアンケート調査を実施しました。

< 出水市の環境に関する意識調査 >

実施期間：令和2年10月中旬～11月上旬

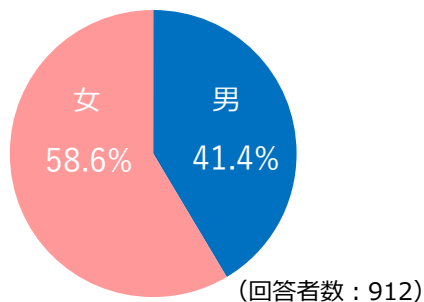
対象：市民2,000人 事業所100所

回答率：市民46.0%（有効920人） 事業所65.0%（有効65事業所）

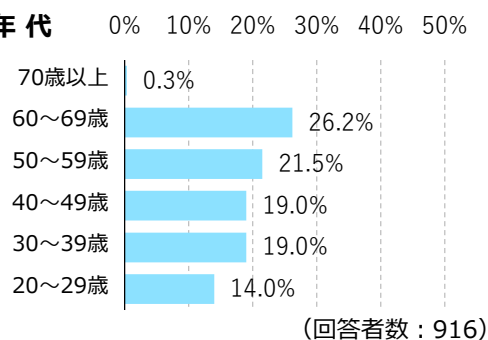
#### ア 市民アンケート

アンケート対象者の基本的な事項は、以下に示すとおりです。

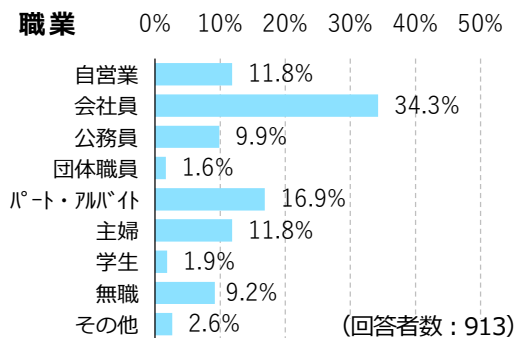
##### 性別



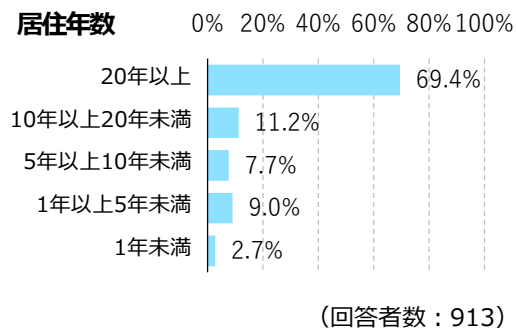
##### 年代



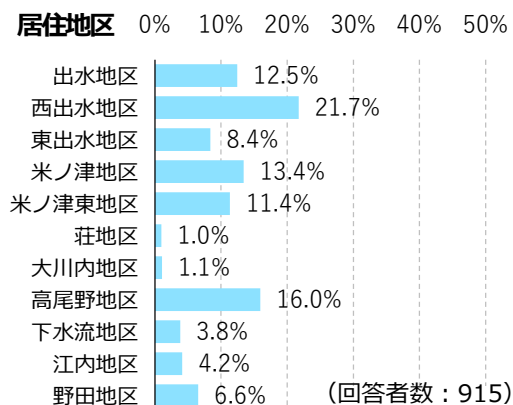
##### 職業



##### 居住年数



##### 居住地区

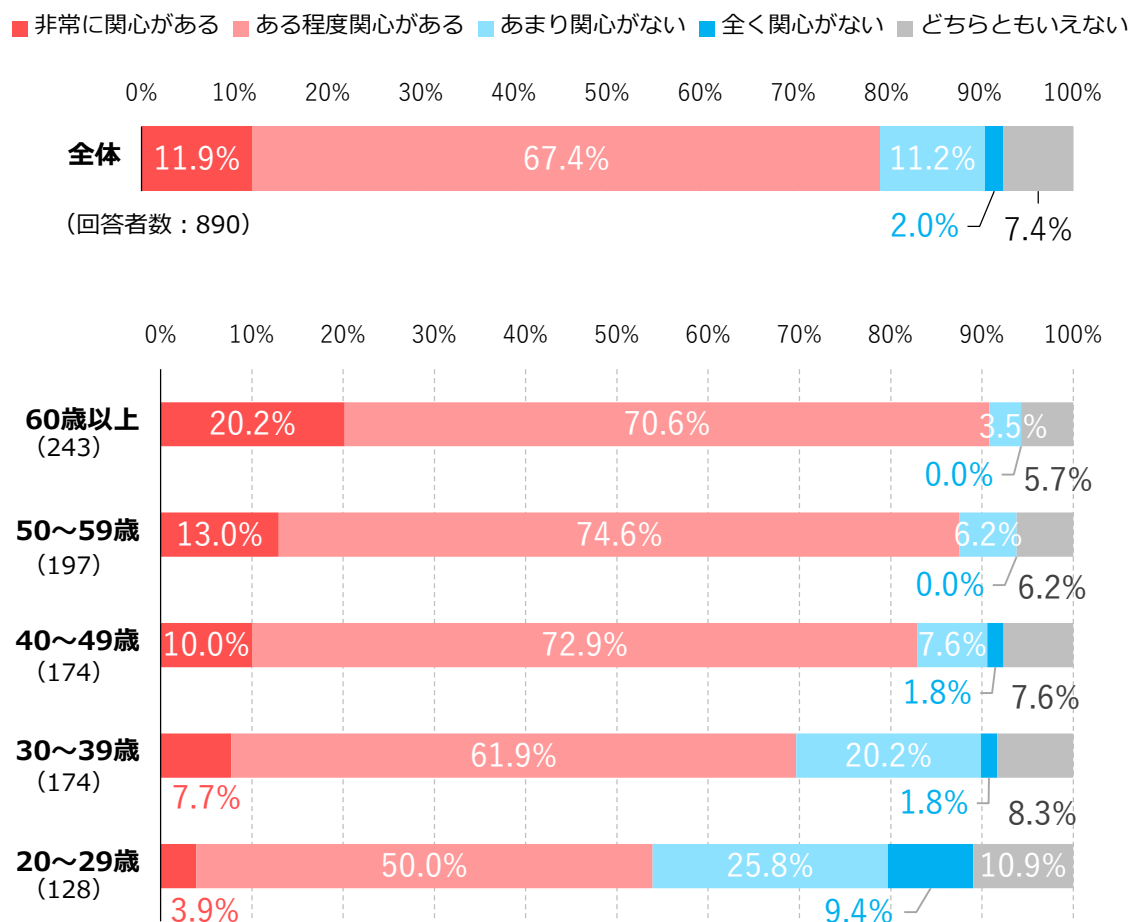


(ア) 環境に関する意識について

■ 環境問題に対する関心の程度について

環境問題に対する関心の程度については、79.3パーセントの市民が「非常に興味がある」又は「ある程度興味がある」と回答しており、多くの市民が環境問題に関心を持っていることが分かりました。

しかし、年代別にみると若い世代ほど関心度が下がっており、20代では「非常に興味がある」又は「ある程度興味がある」と回答したのは53.9パーセントにとどまりました。

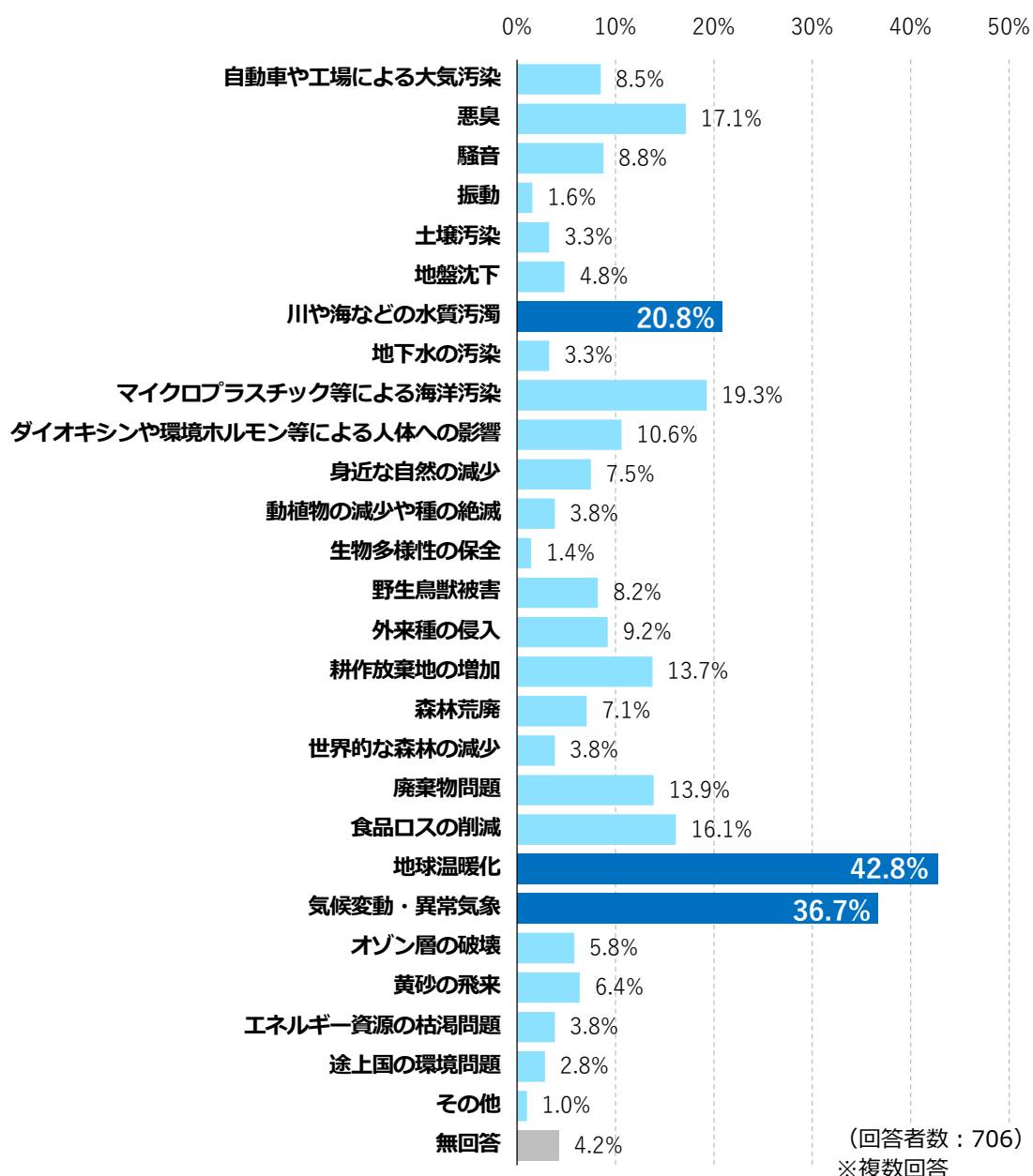


注1 ( ) 内の数字は回答者数

■ 関心のある環境問題について

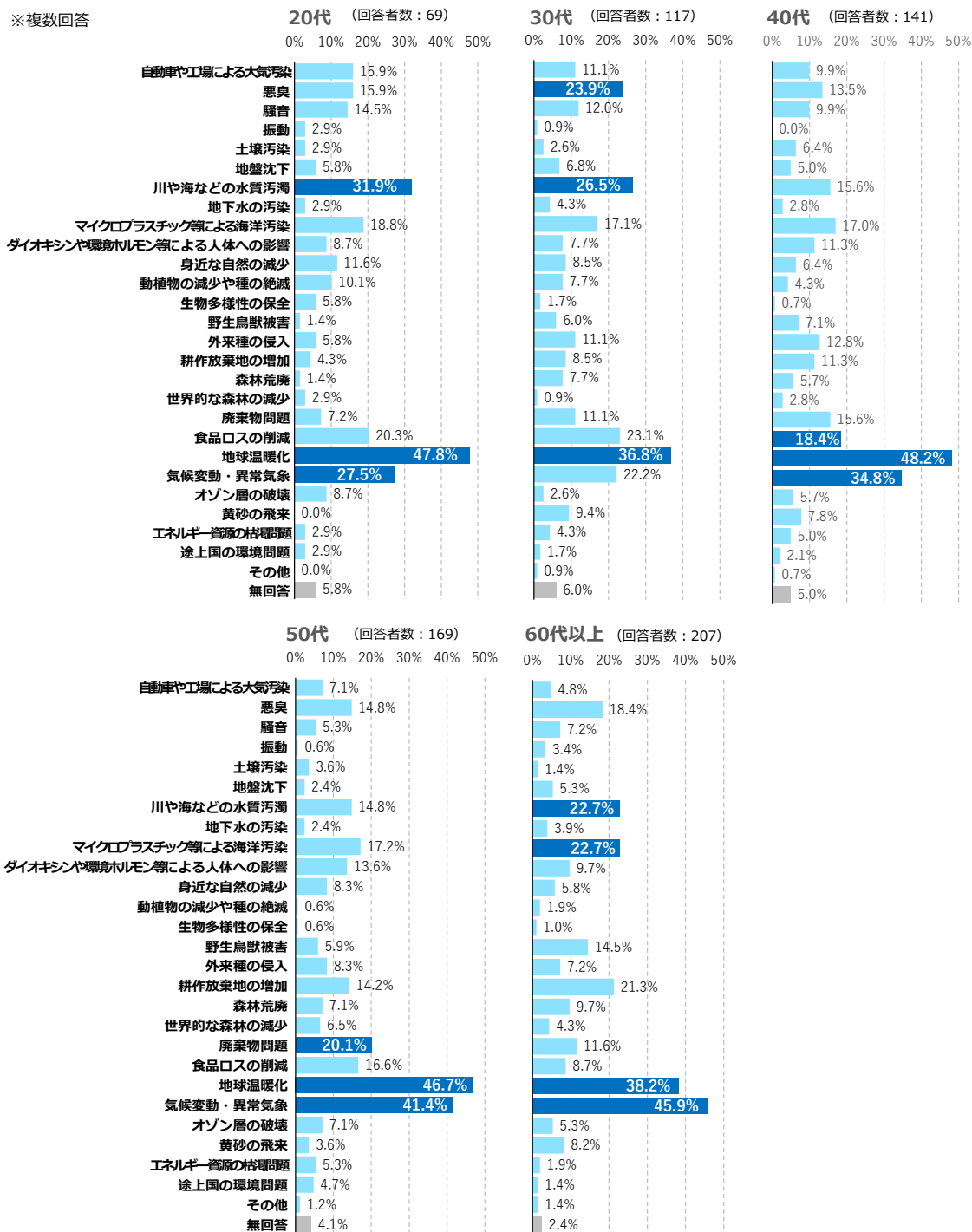
関心のある環境問題については、「地球温暖化」及び「気候変動・異常気象」への関心が高く、それぞれ35パーセント以上の市民が回答しています。

また、地域性のある環境問題として「悪臭」や「川や海などの水質汚濁」、近年世界的に注目されている「マイクロプラスチック等による海洋汚染」等で比較的関心が高く、「身近な自然の減少」、「動植物の減少や種の絶滅」、「森林荒廃」、「世界的な森林の減少」等の自然環境に関する関心が低くなっています。



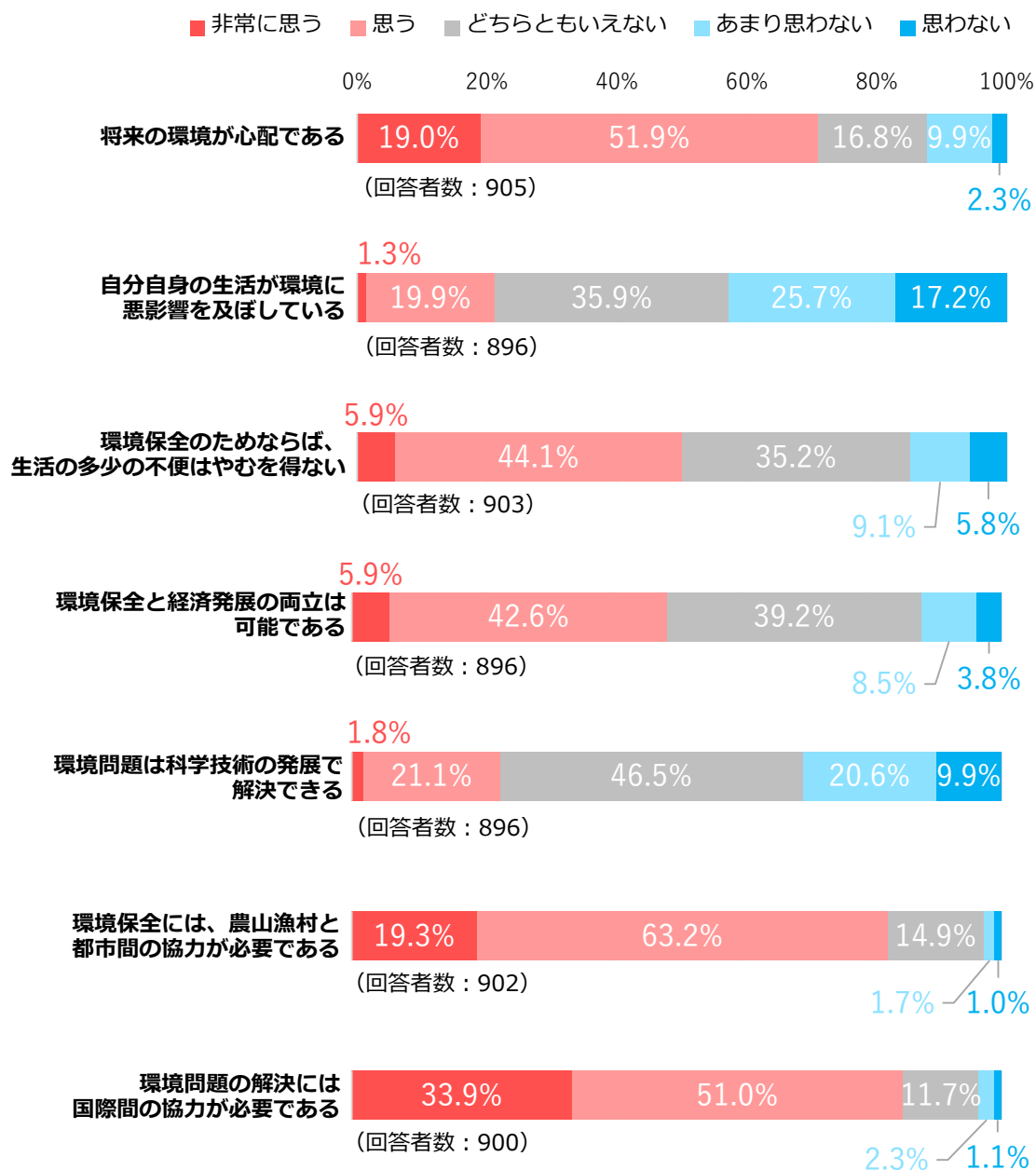
年代別にみると、「地球温暖化」や「気候変動・異常気象」は世代を問わず関心が高くなっています。

次いで関心が高い項目は、20代、30代は「川や海などの水質汚濁」、40代は「食品ロスの削減」、50代は「廃棄物問題」、60代以上は「川や海などの水質汚濁」及び「マイクロプラスチック等による海洋汚染」となっています。



## ■ 環境に関する意識について

環境に関する意識については、「将来の環境が心配である」で70.9パーセントの市民が「非常に思う」又は「思う」と回答している一方で、「自分自身の生活が環境に悪影響を及ぼしている」では21.2パーセントにとどまっています。



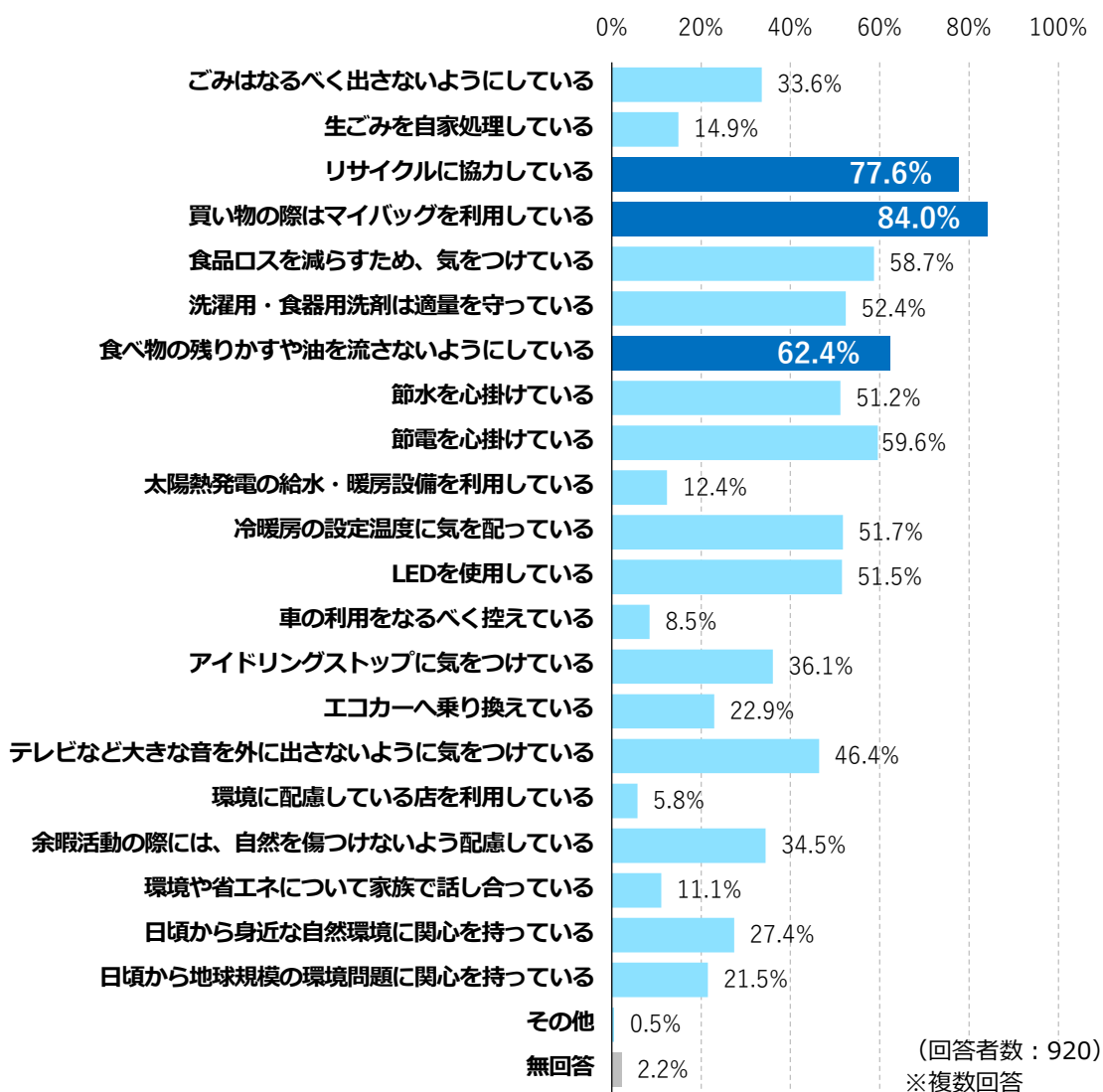
## (イ) 日常生活での行動について

### ■ 環境保全のために日常生活で行っている行動について

環境保全のために日常生活で行っている行動について、「リサイクルに協力している」及び「買い物の際はマイバッグを利用している」の割合が高くなっています。特にマイバッグの利用については84.0パーセントと非常に高く、これは令和2年7月1日から導入されたプラスチック製買い物袋の有料化に起因するものと考えられます。

また、「食品ロスを減らすため気をつけている」、「洗濯用・食器用洗剤は適量を守っている」、「食べ物の残りがすや油を流さないようにしている」、「節水を心掛けている」、「節電を心掛けている」、「冷暖房の設定温度に気を配っている」、「LEDを使用している」はいずれも50パーセント以上の市民が回答しており、家庭内において比較的気軽に取り組める環境対策が実施されていることがうかがえます。

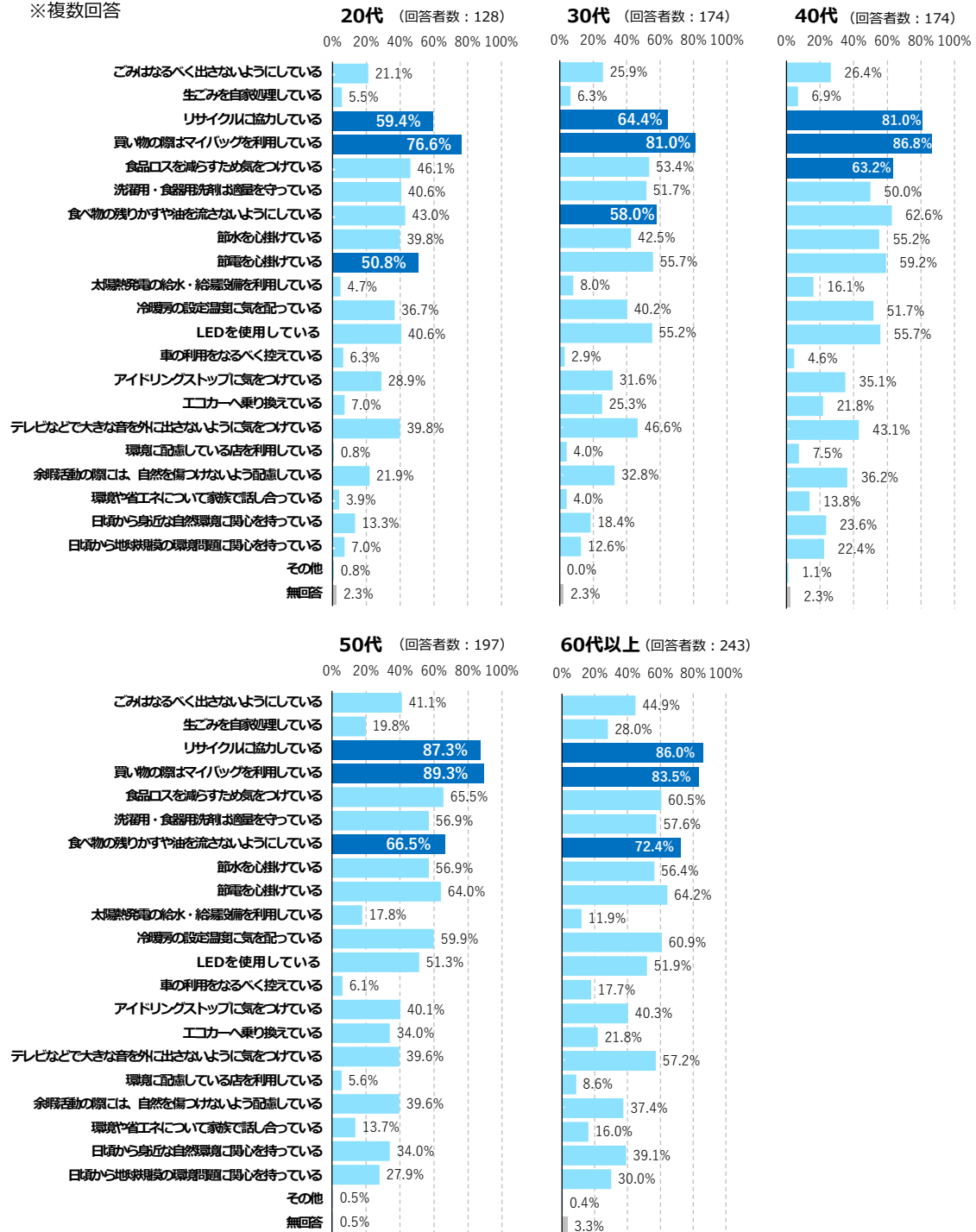
一方、回答数が少なかった項目としては「生ごみを自家処理している」、「太陽熱発電の給水・暖房設備を利用している」、「車の利用をなるべく控えている」、「環境に配慮している店を利用している」が挙げられますが、これは初期投資の費用の負担や日常生活における利便性の重視が要因として考えられます。



年代別にみると、「買い物の際はマイバッグを利用している」や「リサイクルに協力している」は世代を問わず割合が高くなっています。

次いで割合が高い項目は、20代は「節電を心掛けている」、30代、50代及び60代以上は「食べ物の残りがすや油を流さないようにしている」、40代は「食品ロスを減らすため気をつけている」となっています。

※複数回答



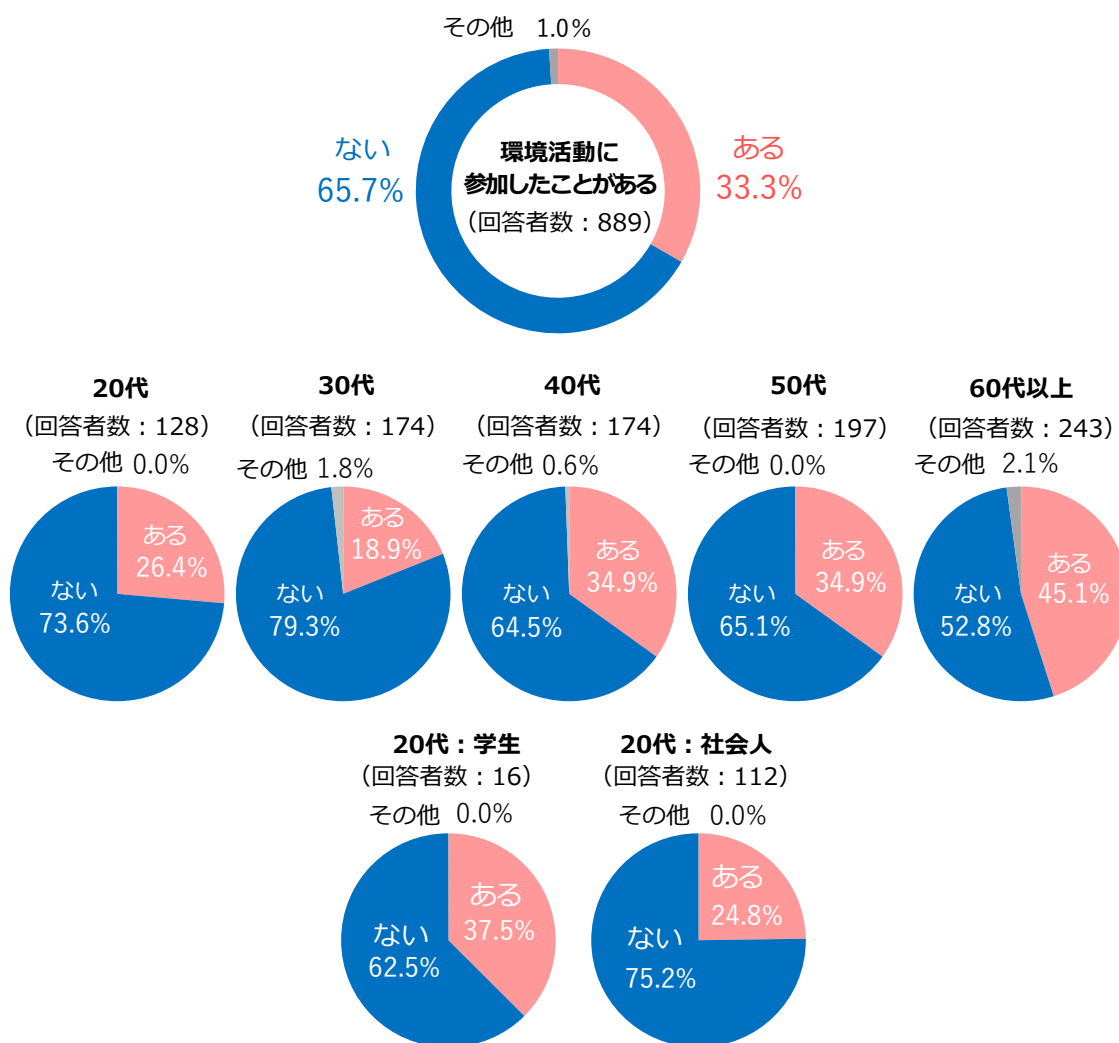
(ウ) 環境保全活動について

■ 環境保全活動について

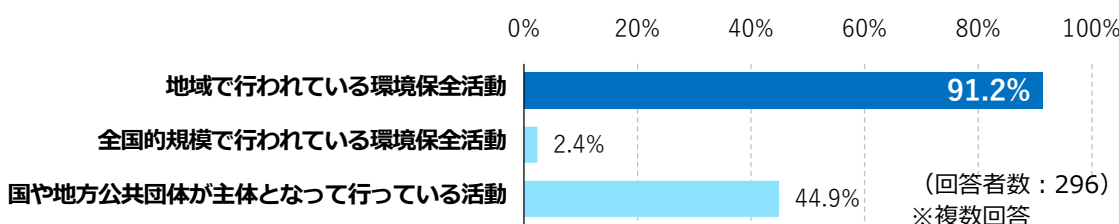
環境保全活動について、参加したことがある市民は33.3パーセントにとどまっています。

年代別にみると、30代を除いて年齢が上がるほど、環境保全活動に参加したことがある人の割合が高くなっていきます。30代で参加したことがある人の割合が少ないのは、一般的に30代では仕事や家庭面において多忙になりやすい年代であることが理由の一つと考えられます。

また、20代の結果を学生と社会人で分類したところ、学生は約40パーセントが環境保全活動に参加したことがあると回答しています。



参加したことがある活動については、「地域で行われている環境保全活動」が最も多く、次いで「国や地方公共団体が主体となって行っている活動」となっています。



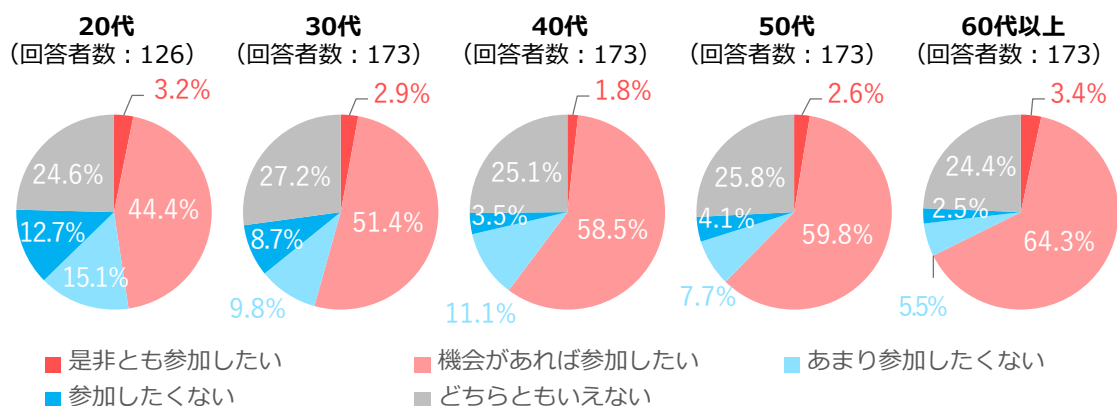
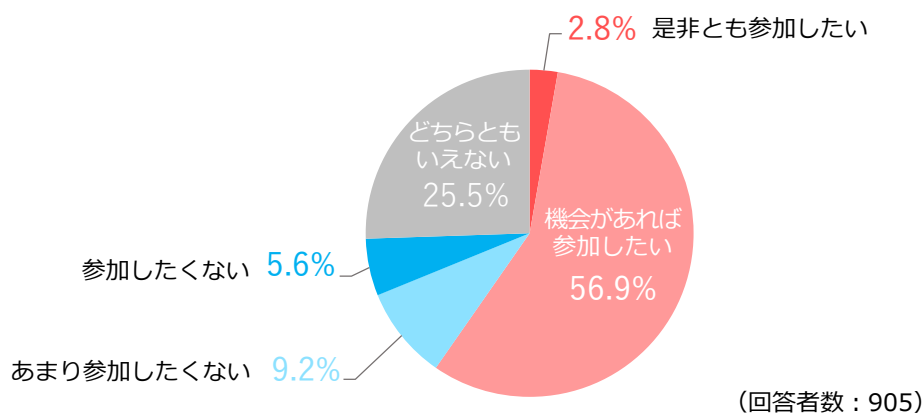


■ 今後の環境保全活動の参加について

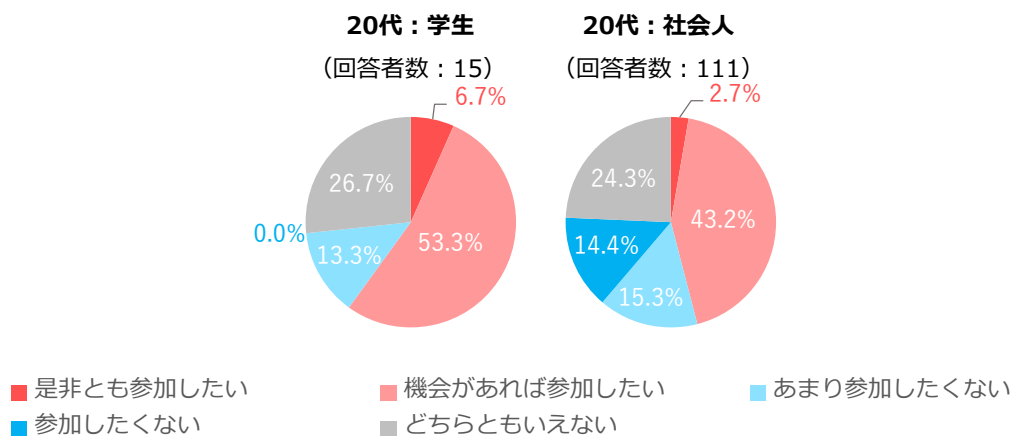
今後の環境保全活動への参加について、59.7パーセントの市民が「是非とも参加したい」又は「機会があれば参加したい」と回答しています。

年代別にみると、年齢が上がるほど、参加したいと答えた割合が高くなっています。

また、20代の結果を学生と社会人で分類したところ、学生は約50パーセントが環境保全活動に参加したいと回答しています。特に「是非とも参加したい」の割合は、全ての年代で最も高くなっています。



■ 是非とも参加したい ■ 機会があれば参加したい ■ あまり参加したくない  
■ 参加したくない ■ どちらともいえない

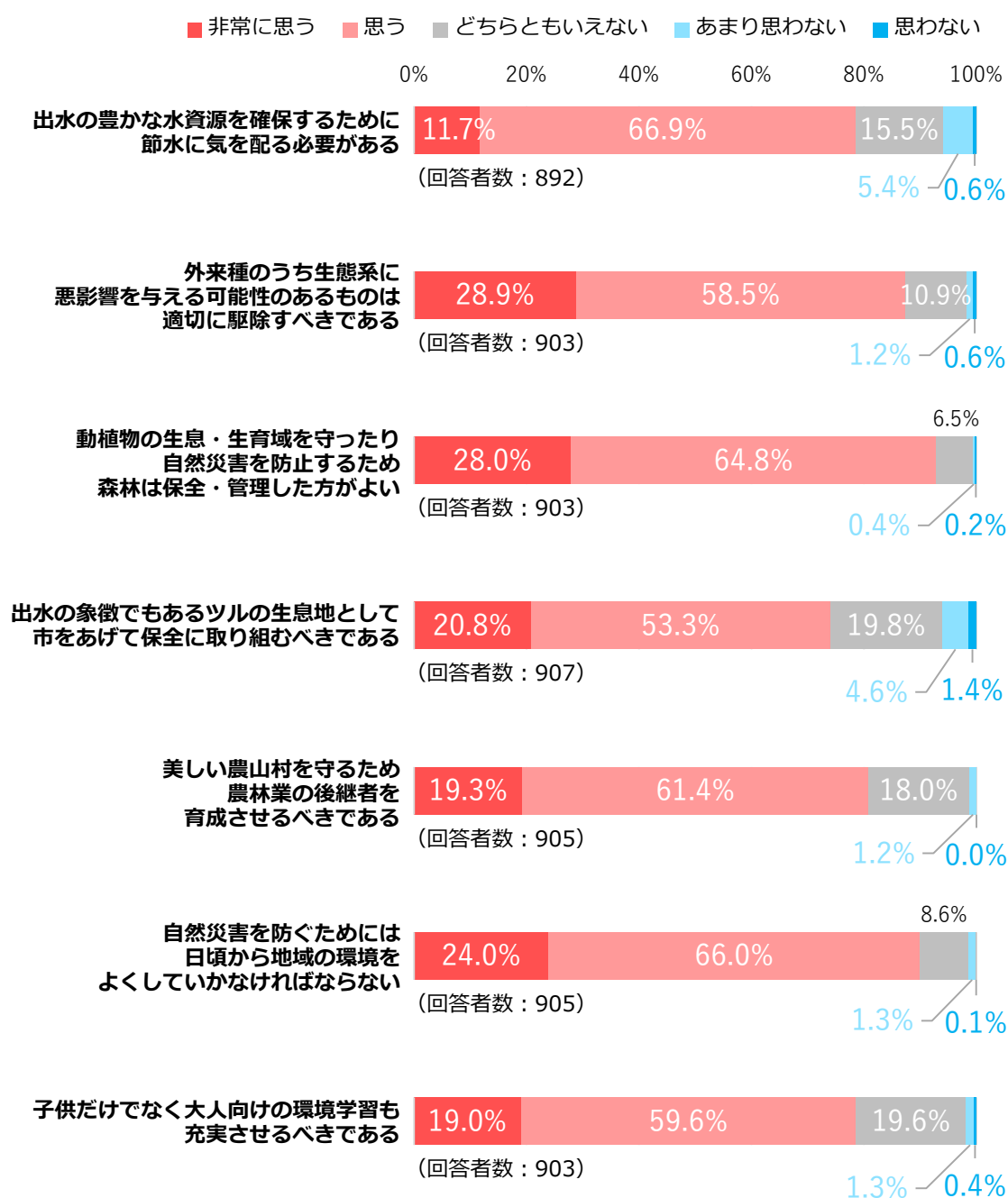


■ 是非とも参加したい ■ 機会があれば参加したい ■ あまり参加したくない  
■ 参加したくない ■ どちらともいえない

## (工) 環境保全のための行動について

環境保全のための行動について、いずれの項目でも70パーセント以上の市民が「非常に思う」又は「思う」と回答しています。

中でも「動植物の生息・生育域を守ったり、自然災害を防止するため森林は保全・管理した方がよい」、「自然災害を防ぐためには、日頃から地域の環境をよくしていかなければならない」の項目については、「非常に思う」又は「思う」と回答した市民は90パーセントに達しており、自然災害と環境保全のつながりについての認識が高まっていることがうかがえます。

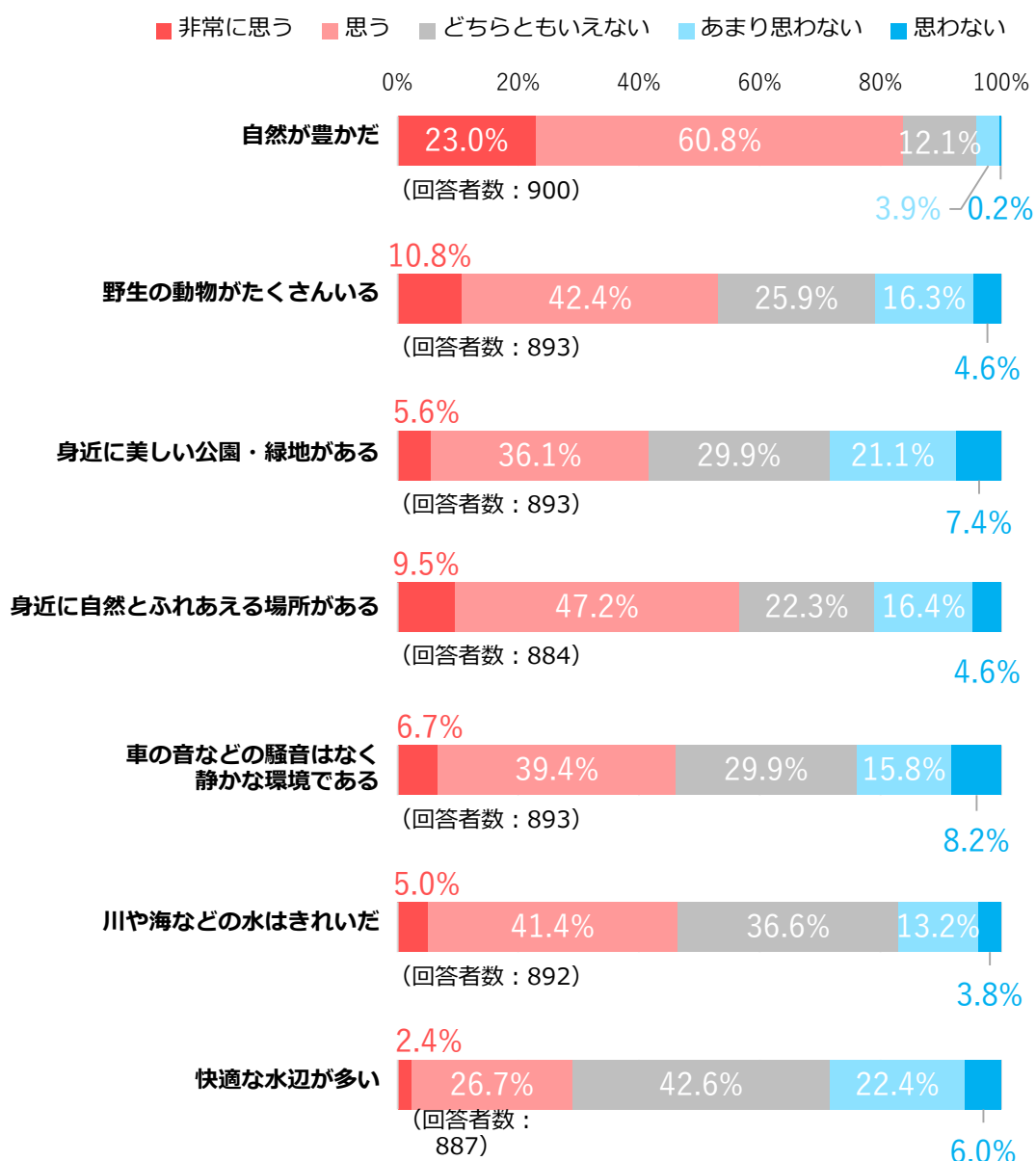


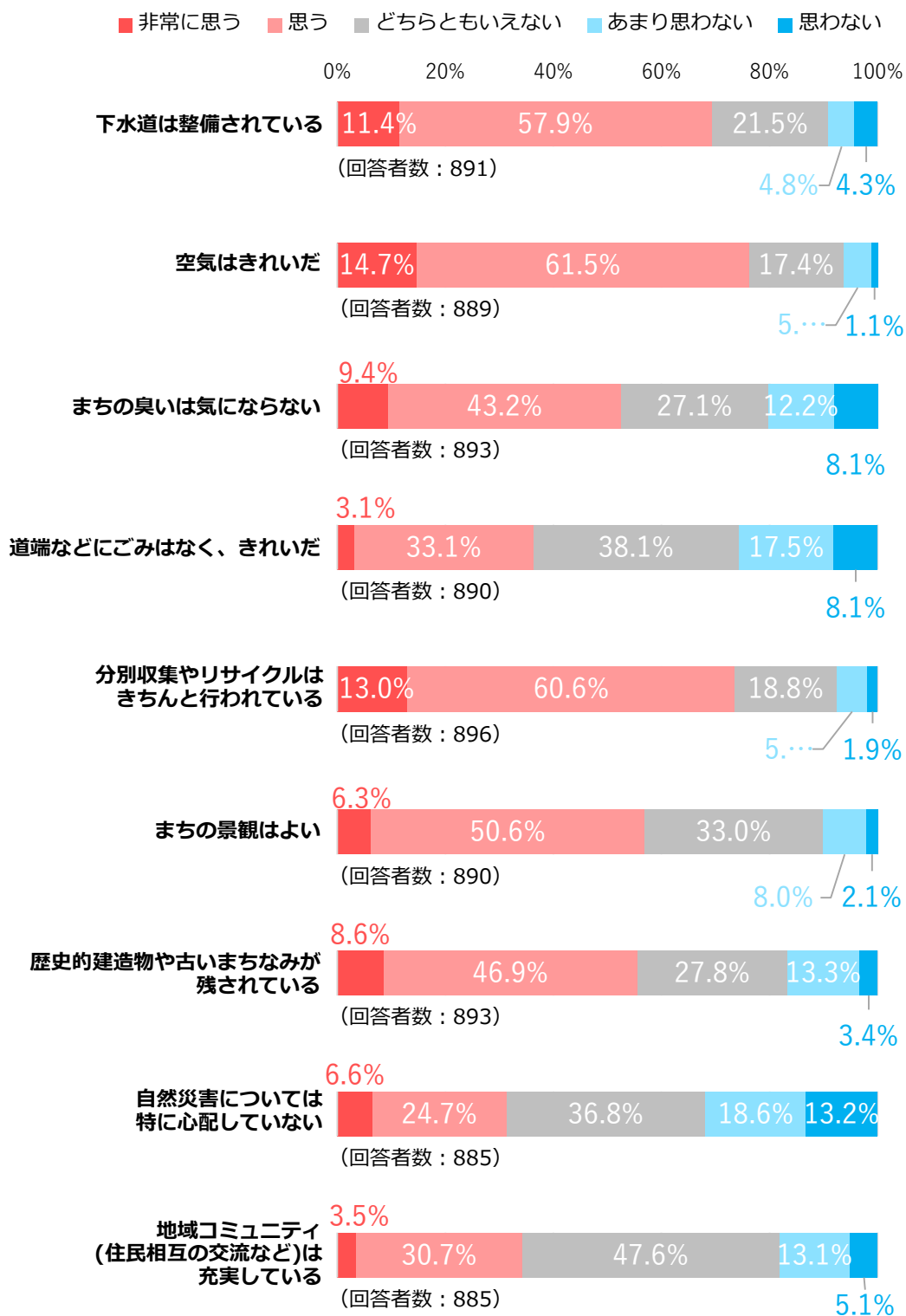
(オ) 身の回りの環境について

■ 住んでいる地域の環境について

住んでいる地域の環境について、肯定的な意見が多かった項目は「自然が豊かだ」、「空気はきれいだ」、「分別収集やリサイクルはきちんと行われている」であり、いずれも70パーセント以上の市民が「非常に思う」又は「思う」と回答しています。

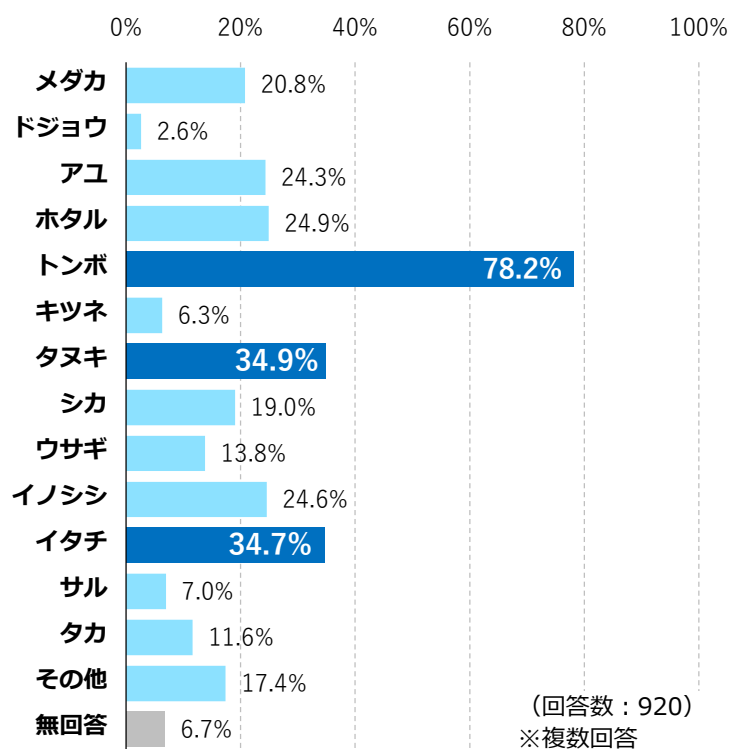
その一方で否定的な意見が比較的多かった項目は「身近に美しい公園・緑地がある」、「快適な水辺が多い」、「道端などにごみはなく、きれいだ」、「自然災害は特に心配していない」であり、いずれも25パーセント以上の市民が「あまり思わない」又は「思わない」と回答しています。





■ 住んでいる地域において身近に見られる動物について

住んでいる地域において身近に見られる動物について、「トンボ」と回答した市民が78.2パーセントに上ったほか、「タヌキ」及び「イタチ」も30パーセント以上の市民が回答しています。

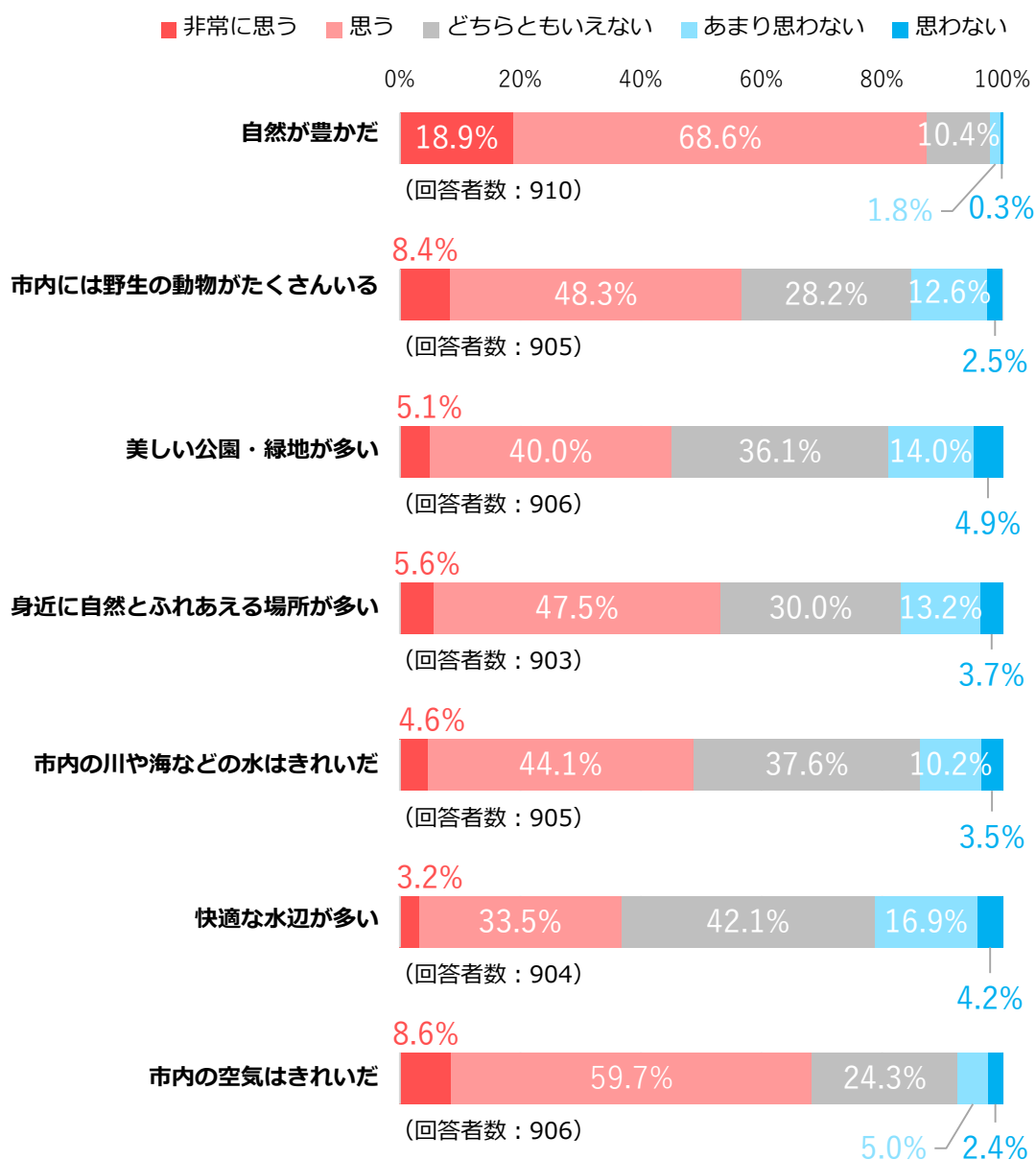


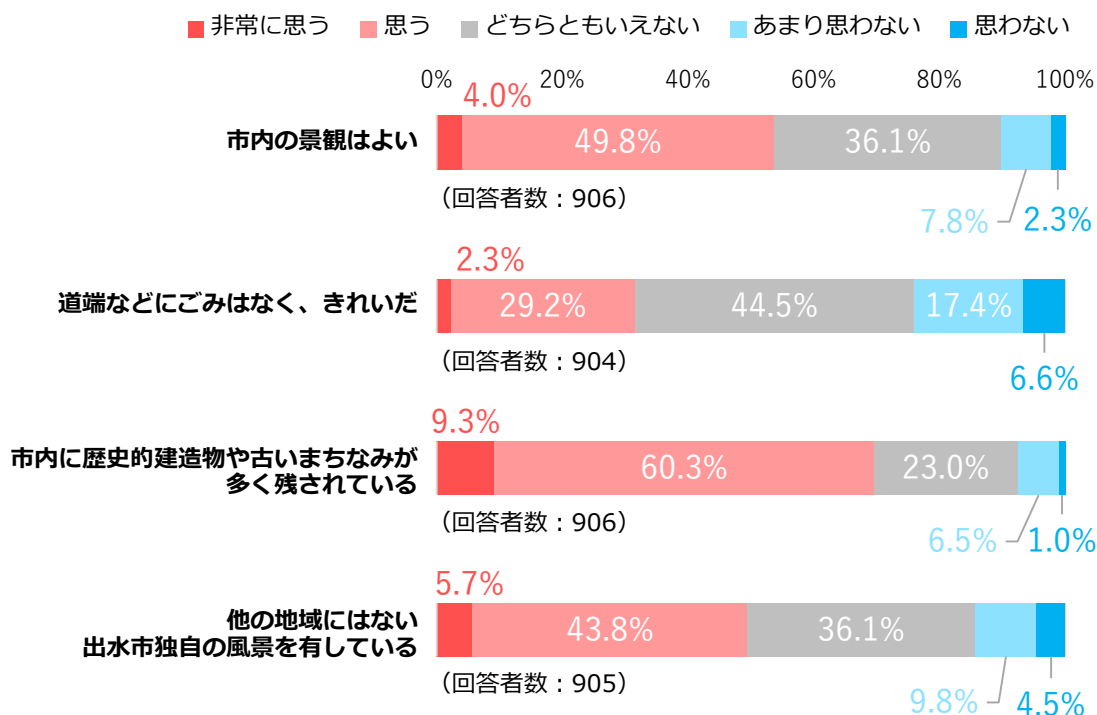
(カ) 出水市全域の環境について

■ 出水市全域の環境について

出水市全域の環境について、肯定的な意見が比較的多かった項目は「自然が豊かだ」、「市内の空気はきれいだ」、「市内に歴史的建造物や古いまちなみが多く残されている」であり、いずれも65パーセント以上の市民が「非常に思う」又は「思う」と回答しています。

その一方で否定的な意見が比較的多かった項目は「快適な水辺が多い」、「道端などにごみはなく、きれいだ」であり、いずれも20パーセント以上の市民が「あまり思わない」又は「思わない」と回答しています。

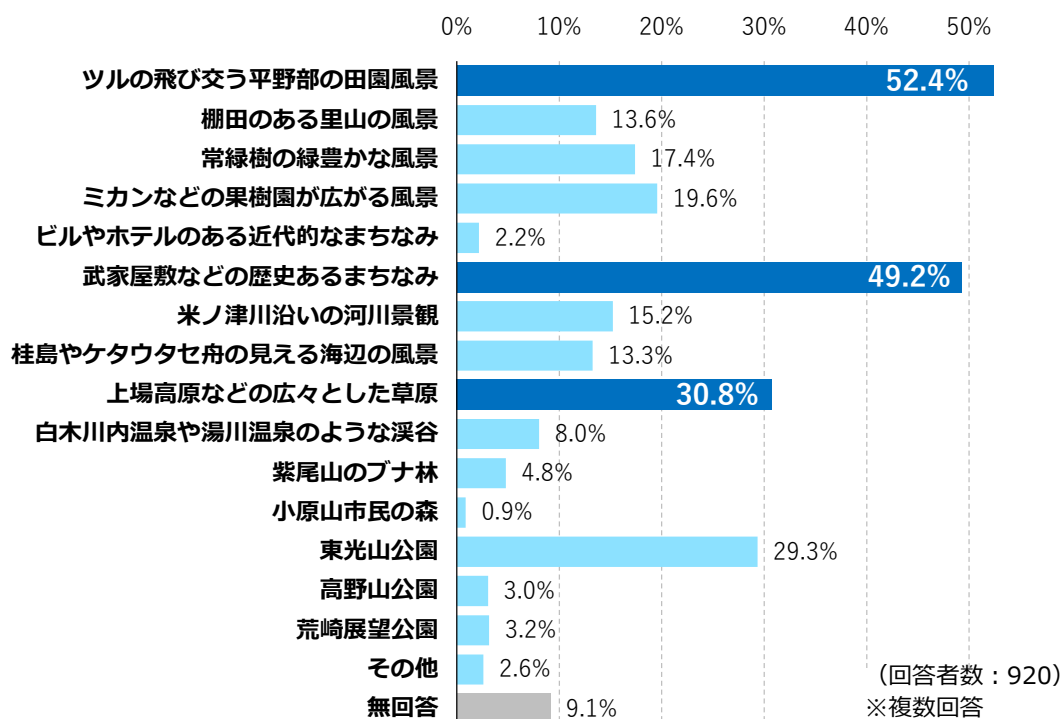




#### ■ 出水市内の好きな風景について

出水市内の好きな風景について、特に回答数が多かったのは「ツルの飛び交う平野部の田園風景」及び「武家屋敷などの歴史あるまちなみ」で、ともに約50パーセントの市民が回答しています。両項目はいずれも本市の象徴となるものであり、マスコミを通じた広報の効果にも起因すると考えられます。

一方、「ビルやホテルのある近代的なまちなみ」、「紫尾山のブナ林」、「小原山市民の森」、「高野山公園」、「荒崎展望公園」は回答数が少なく、5パーセント以下にとどまっています。

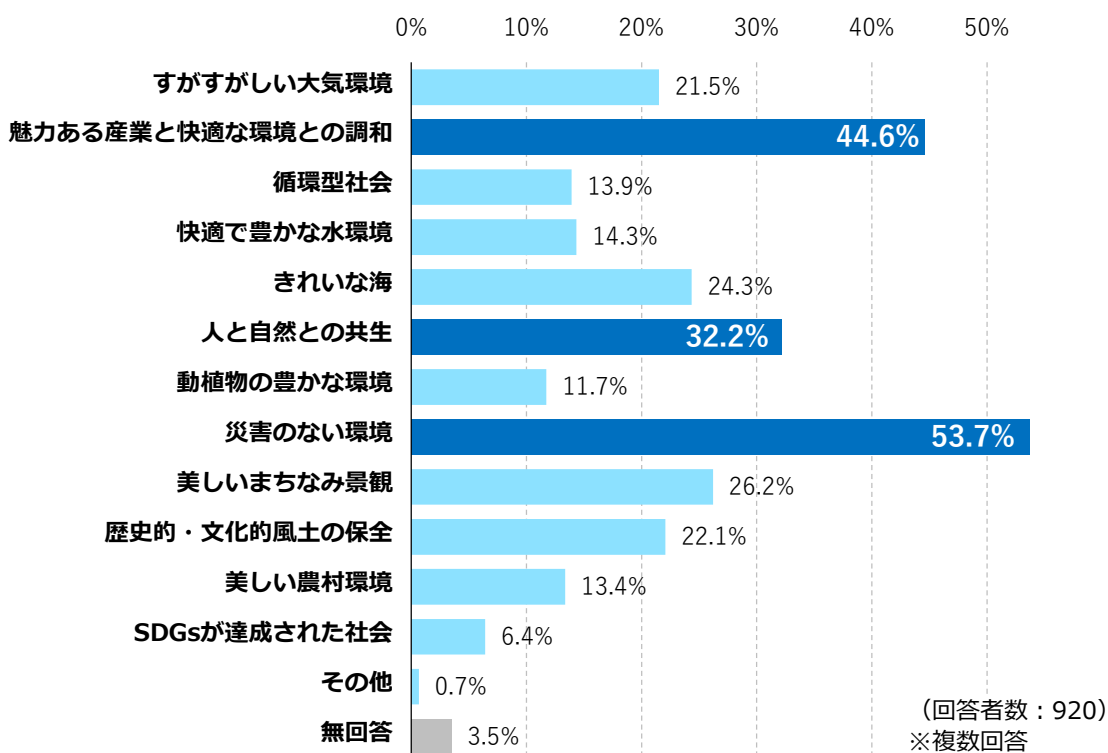


(キ) 出水市の望ましい環境像について

■ 出水市の環境の将来像として望むもの

出水市の望ましい環境の将来像について、特に回答数が多かった項目は「魅力ある産業と快適な環境との調和」及び「災害のない環境」でした。このことから、市民はただ環境を保全するだけでなく、産業の発展や災害防止等、生活に関わることを第一に望んでいると考えられます。

一方で、近年注目されている「SDGsが達成された社会」は、回答数が最も少なく、市民の中でSDGsの認知度や関心が低いと考えられます。



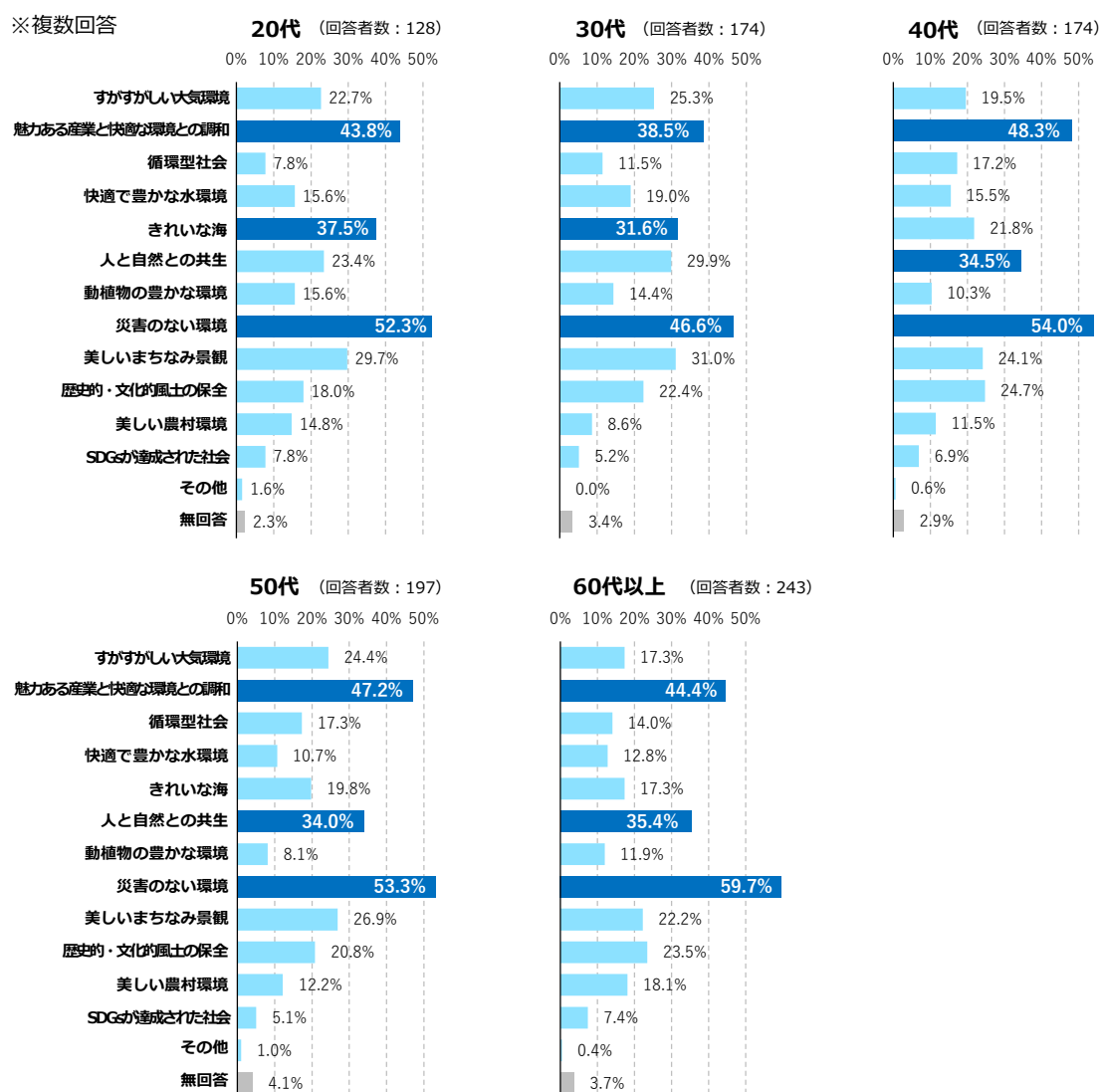


年代別にみると、「災害のない環境」や「魅力ある産業と快適な環境との調和」は世代を問わず割合が高くなっています。

また、「動植物の豊かな環境」は、若い世代ほど、若干割合が高くなる傾向にあります。

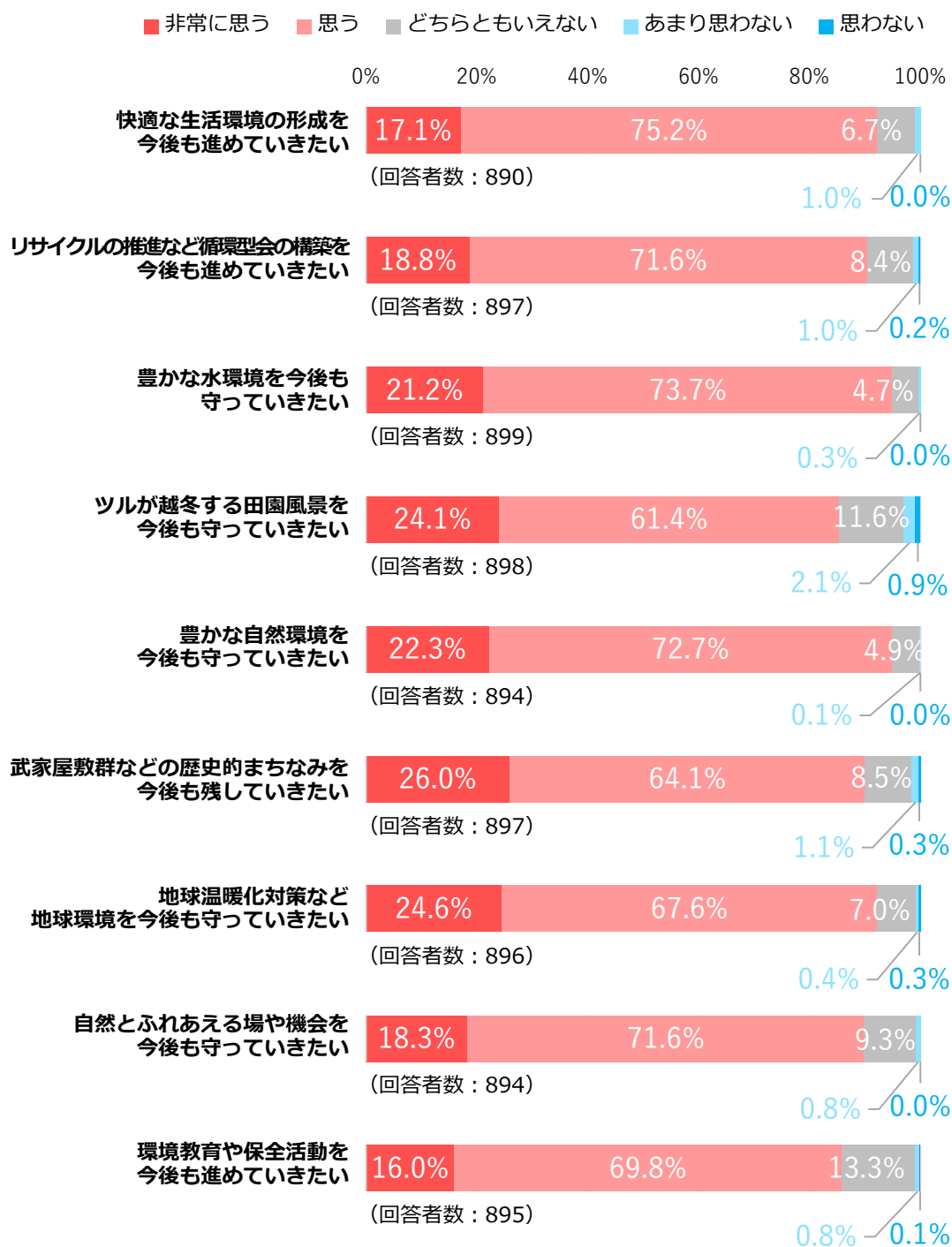
なお、「SDGsが達成された社会」は全ての年代で割合が低く、広く周知していく必要があると考えられます。

※複数回答



## ■ 出水市の環境の方向性

出水市の環境の方向性について、いずれの項目についても肯定的な意見が多く、85パーセント以上の市民が「非常に思う」又は「思う」と回答しました。

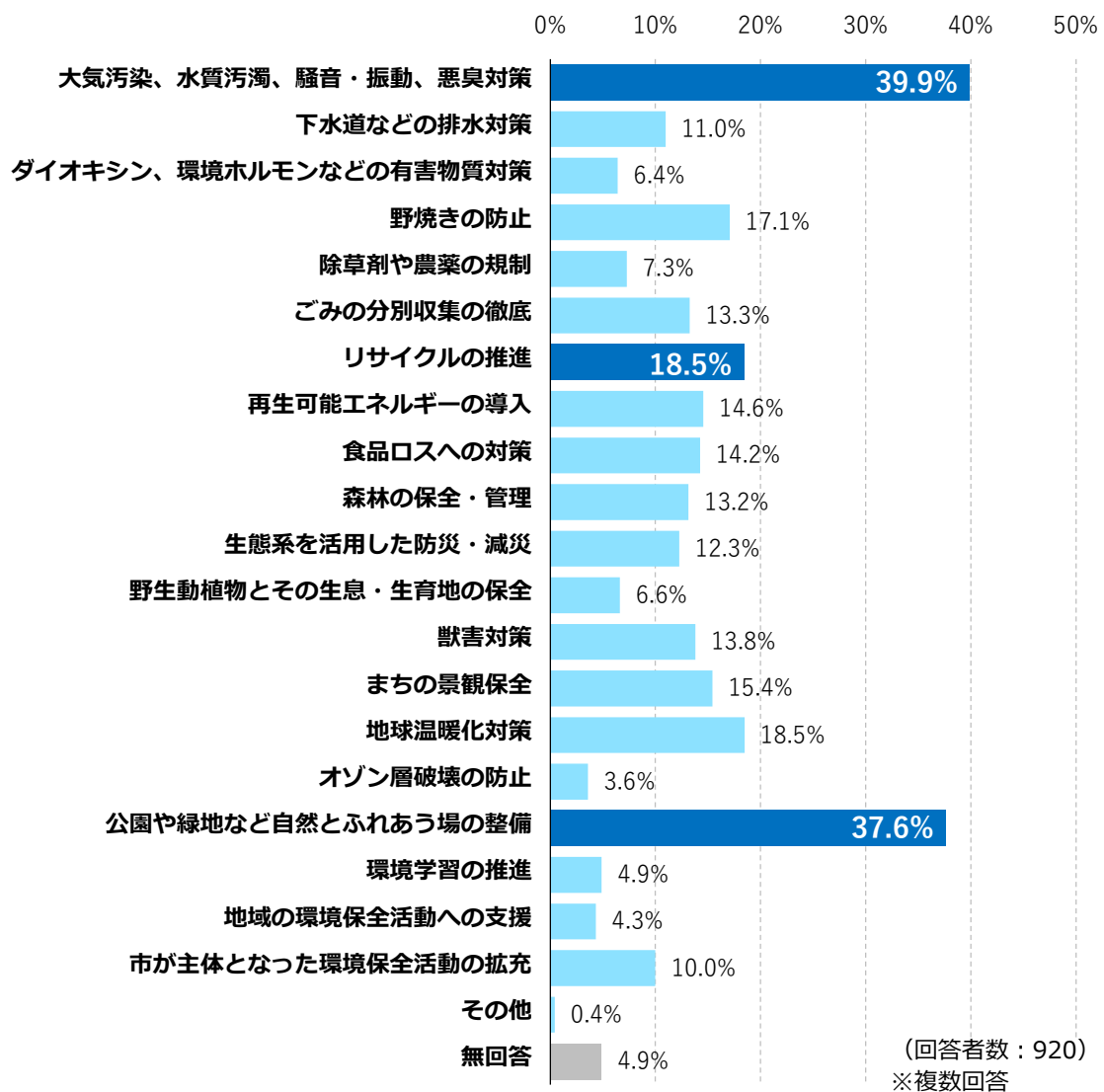


(ク) 市施策への要望について

市施策への要望について、「大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭対策」といった生活環境の保全や「公園や緑地など自然と触れ合う場の整備」の割合が高くなっています。

また、「ごみの分別収集」、「リサイクルの推進」といった廃棄物に係る対応も求められています。

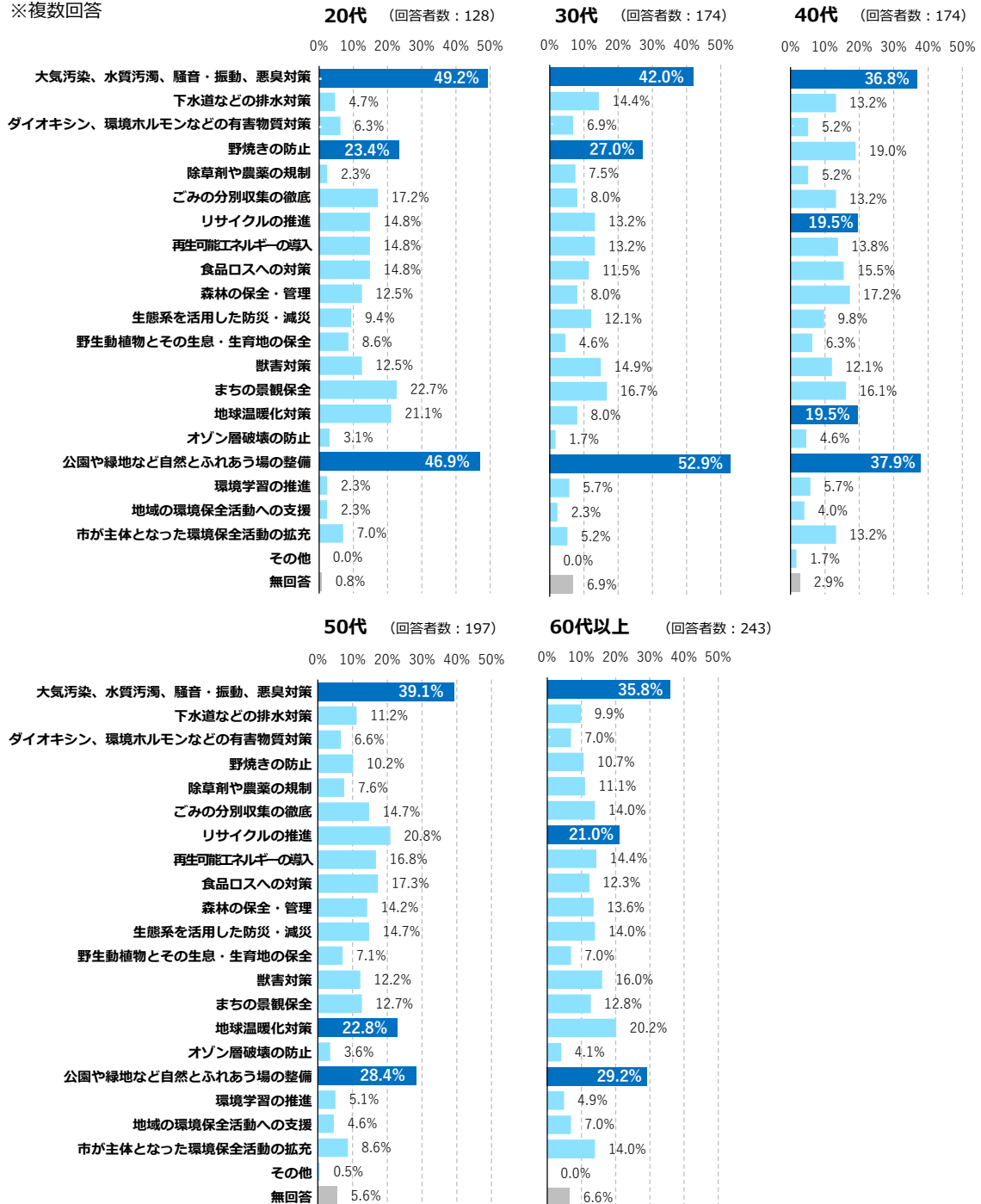
一方で、「環境学習の推進」や「地域の環境保全活動への支援」は割合が低くなっています。



年代別にみると、「大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭対策」や「公園や緑地など自然とふれあう場の整備」は世代を問わず割合が高くなっており、特に20代及び30代で公園等の整備を望む割合が高くなっています。

次いで割合が高い項目は、20代及び30代は「野焼きの防止」、40代及び60代以上は「リサイクルの推進」及び「地球温暖化対策」、50代は「地球温暖化対策」となっています。

※複数回答



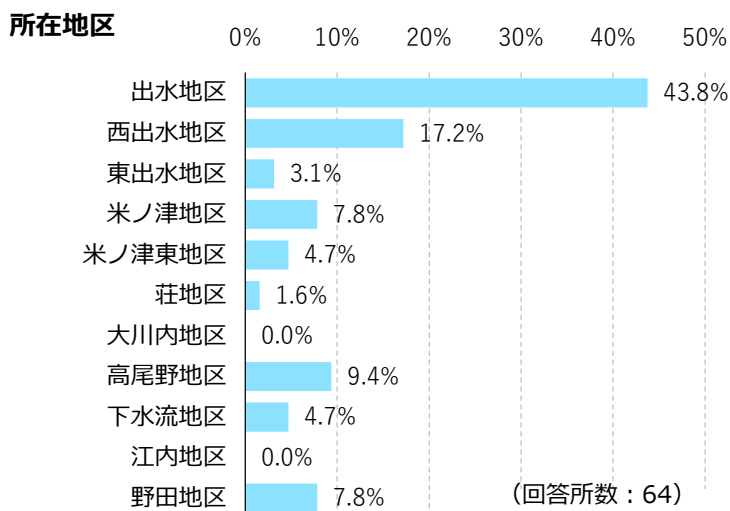
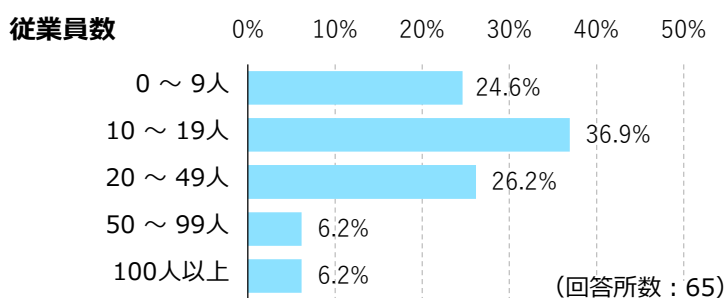
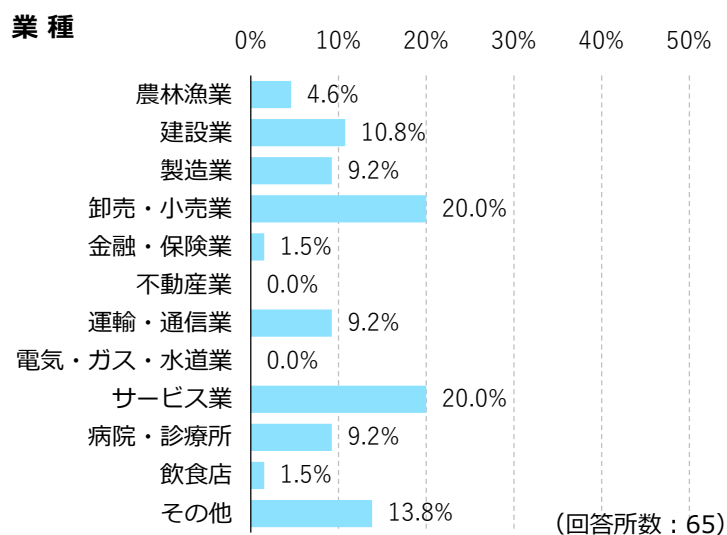
## イ 自由意見

分野	内容
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水駅の周辺や地元の家畜臭と思われる臭いの対策を行い、誰が来ても好印象を得られる町であってほしいと願います。</li> <li>・悪臭がひどく窓があげられない時がある。</li> </ul>
騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に思うのは騒音問題。出水ではいまだに珍走族のバイクの騒音が日毎から町に響いている。</li> </ul>
道路・河川整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県道及び市道・河川地域の環境整備（草刈、保全等）。シニア世代を活用して効率的に実施されたい。</li> </ul>
公園等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレインパーク等、子ども達が自然の事を学ぶ場所があるのはとても良い事だと思います。</li> <li>・キャンプ場等の公共施設、水辺等で楽しく遊べる施設等要望。</li> </ul>
野焼き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“野焼きの防止”を徹底してください。</li> </ul>
ごみ、リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回決まった曜日ではなく、いつでも出せるような環境があったらいいなと思います。</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからのまちの景観というのは、それらの保全と、街の発展を同時に見すえた長期的視点の街づくりが求められると思います。それぞれの魅力あふれる出水市になれば最高です。</li> <li>・まちの景観。武家屋敷等すばらしいです。</li> </ul>
農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地隣接した田畑への農薬散布がとても気になる。</li> <li>・農地の荒廃が非常に多くなって来て居るので何とか出来ないのか？</li> </ul>
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の発展の為に自然が減るのは違うと思うので、多くの自然を残して欲しいと思います。</li> <li>・ツルやコメ、ミカン等魅力ある地域だと思いますので、人と自然双方にとって快適なところになればと思います。</li> </ul>
森林整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題とうまくからめて林業への就労が進むよう市のほうでも何か対策を練って頂きたいです。</li> </ul>
ツル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水市＝ツルというイメージは、ただ渡来するからというイメージしかありません。もっと市を上げてイベントにするとか、観光客が出水市へ来てみたいと思うような大きなイベントが必要な気がします。</li> </ul>
環境教育・情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化により将来、田畑の管理、山林の保全が心配です。その為、大人も含めた環境保全の学習機会や補助等ありましたらいいなと思います。</li> <li>・環境対策も大切だが、情報の共有も大切だと思います。</li> </ul>
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「太陽光発電」によって、身近な「雑木林」等の自然が破壊され、今までどこでも見られた昆虫、小鳥、小動物や植物が減少したように思われます。</li> </ul>
地球温暖化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球的な環境対策と、異常気象災害への防備が必要。</li> </ul>

## ウ 事業所アンケート

### (ア) 事業所の概要について

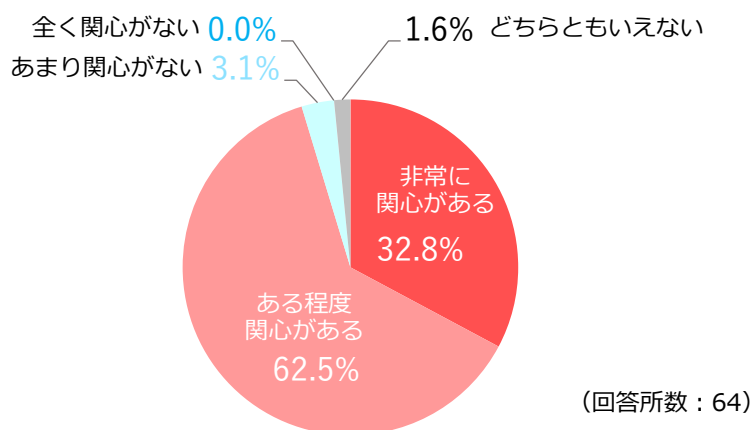
アンケート対象事業所の基本的な事項は、以下に示すとおりです。



(イ) 事業所の環境問題の取組について

■ 環境問題に対する関心の程度について

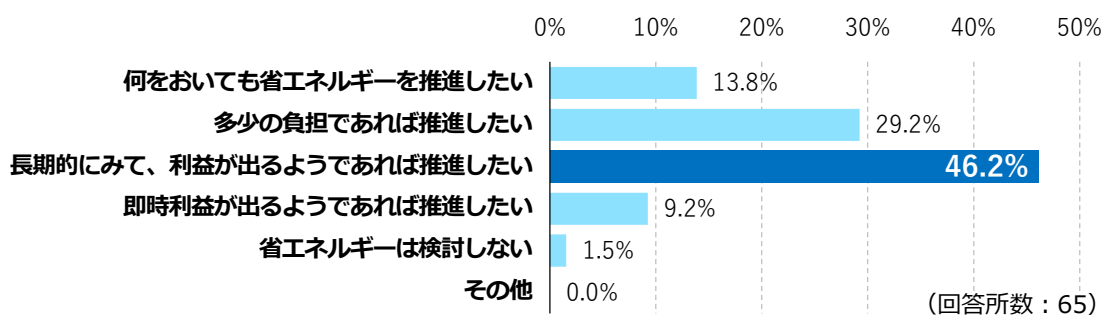
環境問題に対する関心の程度について、市内の事業所の95.3パーセントが「非常に興味がある」又は「ある程度興味がある」と回答しており、多くの事業所が環境問題へ関心を持っていることが分かります。



■ 省エネルギーの推進について

省エネルギーの推進について、98.5パーセントの事業所が「推進したい」と回答しており、省エネルギーの推進について前向きな事業所が多いことが分かりました。

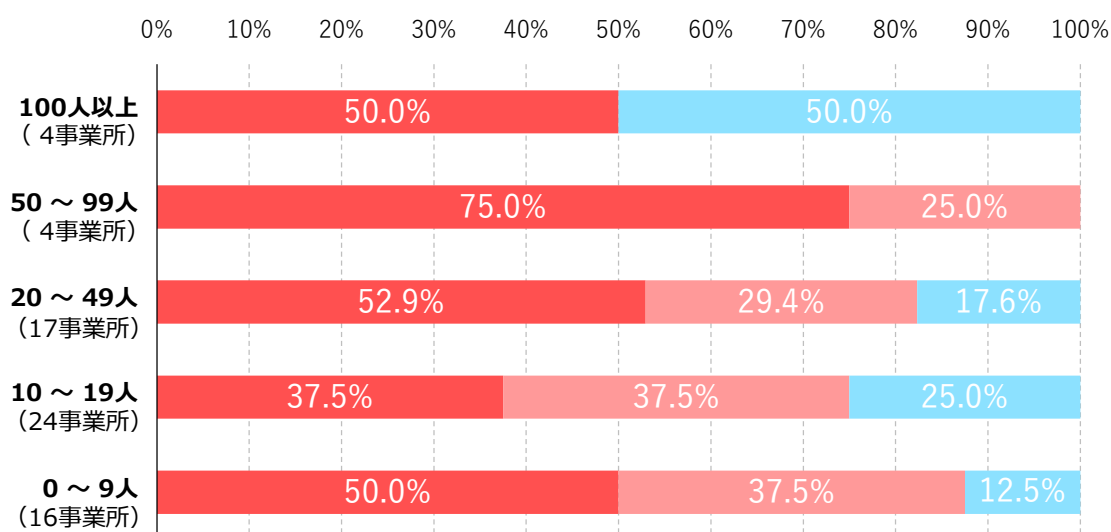
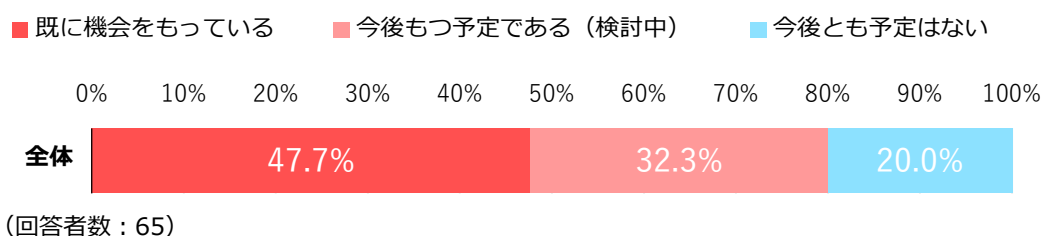
内訳を見てみると、「何をおいても省エネルギーを推進したい」で13.8パーセント、「多少の負担であれば推進したい」で29.2パーセントの回答に対し、「長期的にみて、利益が出るようであれば推進したい」で46.2パーセント、「即時利益が出るようであれば推進したい」で9.2パーセントの回答になっており、利益が出ることを前提に省エネルギーを考える事業所が多くなっています。



### ■ 環境問題に関して話し合う機会の有無について

環境問題に関して話し合う機会の有無について、47.7パーセントの事業所が「既に機会をもっている」と回答しているほか、32.3パーセントの事業所が「今後もつ予定である（検討中）」と回答しており、環境問題に関して話し合う機会について前向きな企業が多いことが分かりました。

従業員数別でみると、従業員数による環境問題に関して話し合う機会の有無の差は小さいと考えられます。



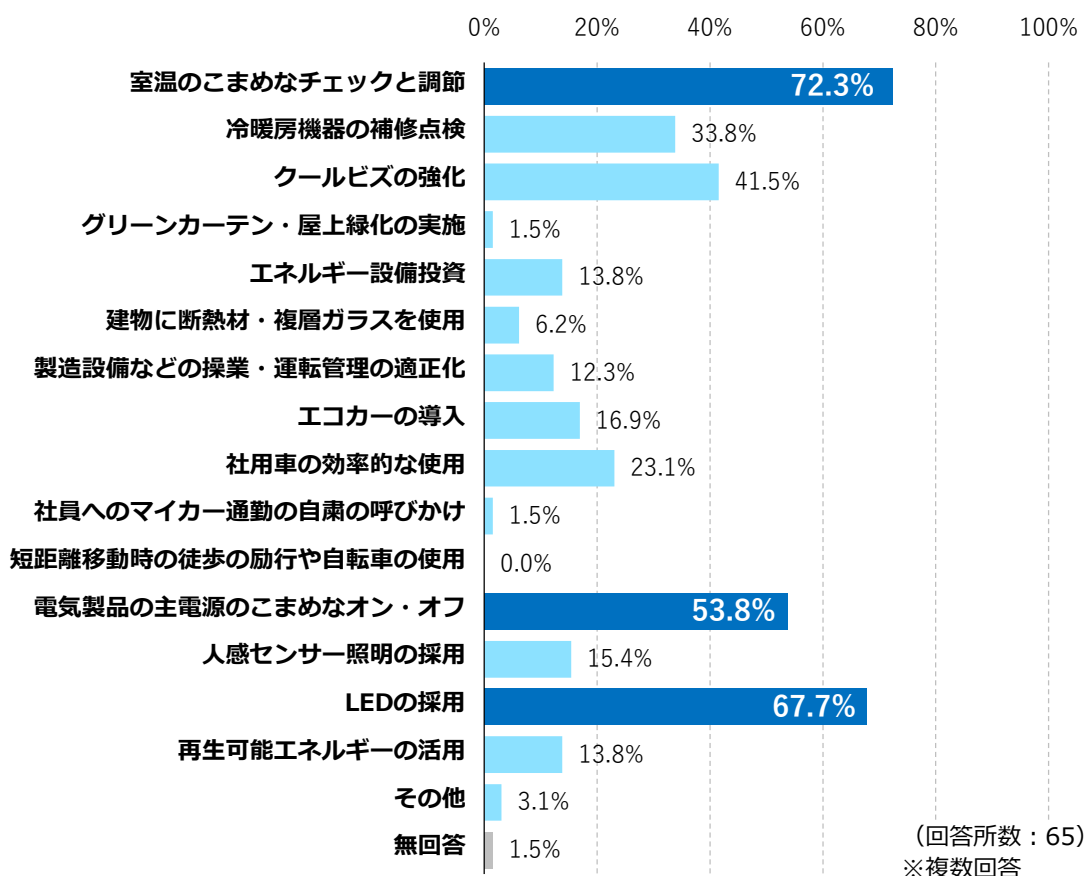


■ 省エネルギーのために具体的に実施していることについて

省エネルギーのために具体的に実施していることについて、回答数が特に多かった項目は「室温のこまめなチェックと調節」及び「LEDの採用」であり、いずれも65パーセント以上の事業所が回答しています。また、「冷暖房機器の補修点検」、「クールビズの強化」、「電気製品の主電源のこまめなオン・オフ」も比較的多くの事業所が回答しています。

これらはいずれも電気代の節約にも関わるものであり、実行に移しやすいためと考えられます。

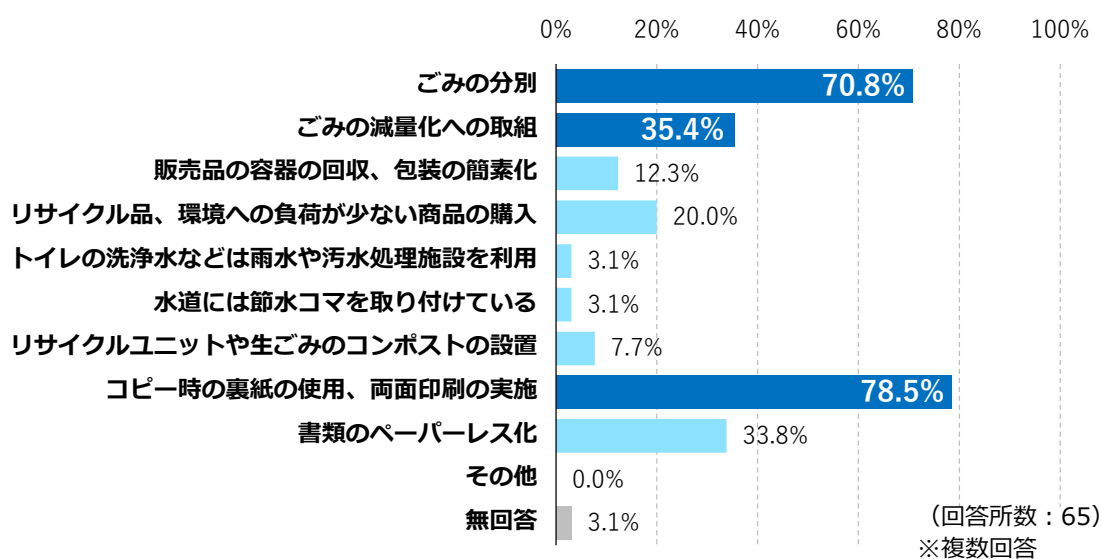
一方、「社員へのマイカー通勤の自粛の呼びかけ」、「短距離移動時の徒歩の励行や自転車の使用」と回答した事業所は少なく、利便性をなくしてまで省エネルギーに取り組むことについては消極的な事業所が多いのが実情です。



■ 省資源のために実施していることについて

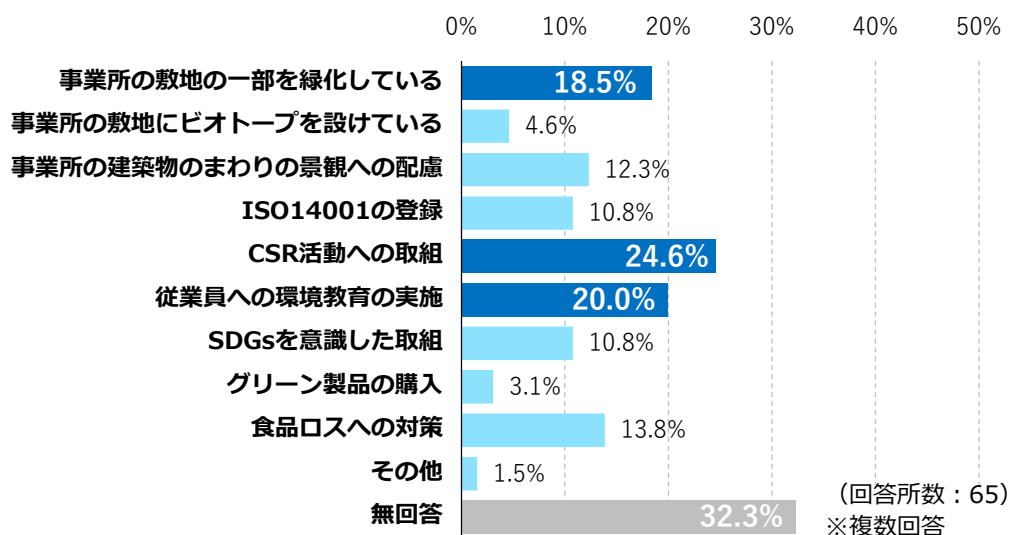
省資源のために実施していることについて、回答数が特に多かった項目は「ごみの分別」及び「コピー時の裏紙の使用、両面印刷の実施」であり、70パーセント以上の事業所が回答しています。

一方、「トイレの洗浄水などは雨水や污水处理施設を利用」、「水道には節水コマを取り付けている」、「リサイクルユニットや生ごみのコンポストの設置」と回答した事業所は10パーセント未満にとどまりました。これは、いずれの項目も実行に当たって初期投資が発生することから、導入に消極的な事業所が多いものと考えられます。



■ 省エネルギー、省資源以外で現在行っている取組について

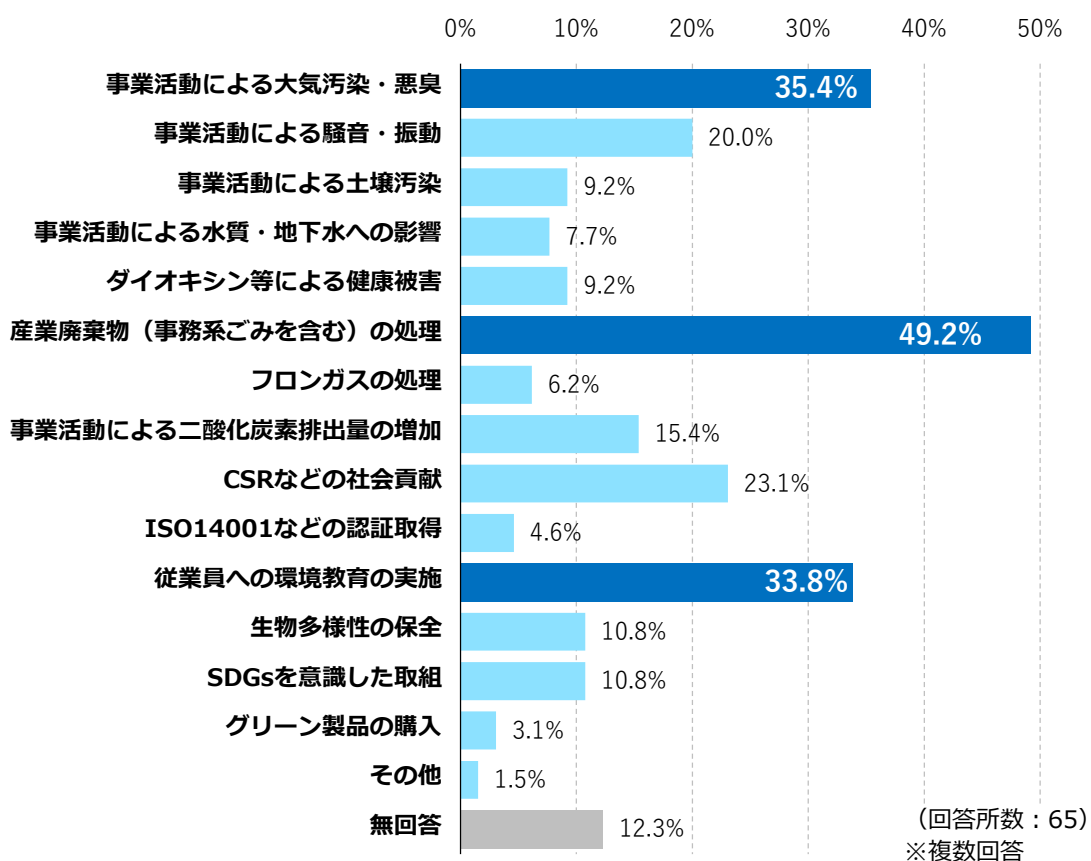
省エネルギー、省資源以外で現在行っている取組については、20パーセント以上の事業所が「CSR活動への取組」及び「従業員への環境教育の実施」と回答しています。



(ウ) 関心のある環境問題について

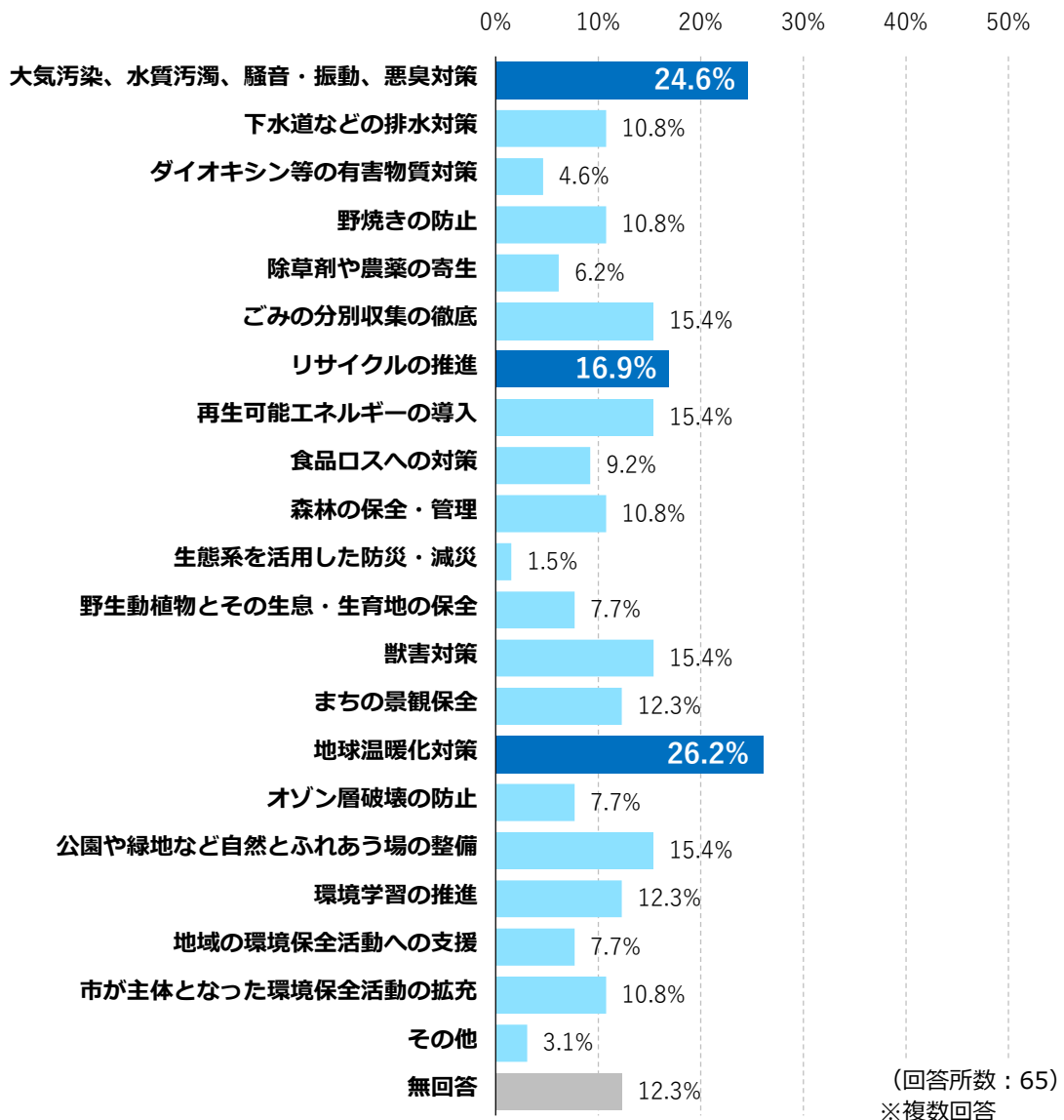
関心のある環境問題については、「産業廃棄物（事業系ごみを含む）の処理」への関心が高く、約50パーセントの事業所が回答しています。

また、「事業活動による大気汚染・悪臭」、「事業活動による騒音・振動」、「CSRなどの社会貢献」、「従業員への環境教育の実施」についても比較的関心が高くなっています。



(工) 市施策への要望について

市施策への要望については「地球温暖化対策」が最も多く、26.2パーセントの事業所が回答しており、次いで「大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭対策」が24.6パーセント、「リサイクルの推進」が16.9パーセントとなっています。



## 工 自由意見

分野	内容
水質汚濁	トイレの合併処理について。水質汚濁等の環境対策からさらに前進させる為には一般家庭に対するこれまでの補助事業を業者へも適応してもらえれば、もっと効果が出ると考えます。市からの事業者に合併処理浄化槽の補助をお願いします。
耕作放棄地	農地の新規購入について農地等が高齢化や過疎化で荒れてきています。然しながら中には、脱サラ、Uターン、定年を過ぎた方が新しく少しだけ農地を購入して農業を始めたいと思っている方がいると聞きました。誰でも、購入して農業をしたいと思っている方には提供できないものでしょうか。
補助金	環境問題に取り組む活動、施設導入時に活用しやすい補助金等があれば取り組みやすくなるのではないかと思います。
SDGs	持続可能な開発目標 SDGs を官民あげて市民、企業一体となって、市が先頭に立ってアピールして取り組んで行っていただきたいと思ひます。



ツルの来るまち出水

## (2) 出水市環境審議会の開催結果

出水市環境基本条例（平成18年3月制定）第8条第2項に基づき、環境基本計画を定めるに当たって、意見を聴収するため出水市環境審議会（以下「環境審議会」といいます。）を開催しました。

環境審議会の概要は以下のとおりです。

### ア 開催日・審議内容

	開催日	審議内容
第1回	令和3年1月29日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本計画及び環境審議会の趣旨説明</li> <li>・環境に係るアンケート調査結果の報告</li> </ul>
第2回	令和3年3月18日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水市環境基本計画に係る中間報告書の内容について</li> </ul>
第3回	令和3年8月11日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水市環境基本計画の素案について</li> <li>・望ましい地域環境の将来像について</li> <li>・表紙について</li> </ul>
第4回	令和3年12月21日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出水市環境基本計画の策定について</li> <li>・表紙について</li> </ul>

### イ 委員名簿（任期：令和2年7月10日から令和4年3月31日まで）

No.	組織名	役職等	氏名	備考
1	公募市民		岩下 京子	
2	出水商工会議所	常議員	宮後 聖仁	
3	鹿児島いずみ農業協同組合	畜産事業本部 参事	松崎 裕治	
4	北さつま漁業協同組合	出水支所 筆頭理事	蒔平 良市	
5	出水市自治会連合会	副会長	井脇 健太郎	
6	出水市生活学校	運営委員長	町田 キミ子	
7	さつま出水青年会議所	専務理事	梶 智和	
8	鹿児島大学	農学部助教	平 瑞樹	学識経験者
9	環境省九州地方環境事務所	野生生物課長	鑪 雅哉	有識者
10	北薩地域振興局 保健福祉環境部	衛生・環境課長	下堂 正弘 溝脇 直規	有識者 令和3年3月31日まで 有識者 令和3年4月1日から

## ウ 審議結果

	分野	主な意見
出 水 市 の 課 題 に つ い て	廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生ごみに係る問題がよく話題に挙がる。</li> <li>・ 例えば、自治会に加入していない住民が規則を守らないといったことがある。</li> </ul>
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家畜等による悪臭問題もあるが、出水市は畜産業者が多く、産業、経済との兼ね合いが難しい。</li> </ul>
	環境への意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境保全の行動につながる市民への意識付けを図る必要がある。</li> <li>・ 若年層の環境に関する意識の低さが懸念される。</li> </ul>
出 水 市 環 境 基 本 計 画 に つ い て	環境基本計画の策定方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い世代の考えを反映させると良い。</li> </ul>
	アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年代別の傾向がよく分かるため、出水市環境基本計画には年代別アンケート結果を掲載するのが良い。</li> </ul>
	環境上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の説明文は、例えば気候変動への対応として脱炭素を挙げる等、具体的なキーワードを盛り込むのが良い。</li> <li>・ 出水市はラムサール条約への登録やツルの分散化等に積極的に取り組んでおり、そういったツルに関する内容を盛り込むのが良い。</li> </ul>
	施策の検討	<p>施策の検討に当たっては、以下を考慮するのが良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産業の悪臭の問題に対して意見が寄せられている。</li> <li>・ 若年層が環境に興味を持つには、ドキュメンタリー等の視覚的情報が有効と考える。</li> <li>・ 鳥獣被害として、イノシシやシカによる農園等に対する食害が報告されている。</li> </ul>

### 3 旧出水市環境基本計画の検証（環境指標値）

平成24年3月に策定された旧出水市環境基本計画の環境指標値における目標の達成状況について検証を行いました。

#### [検証 1] 豊かな水とともに生きるまち

節水を心掛けている市民の割合は51パーセント、「川や海などの水はきれい・非常にきれい」と回答した市民の割合は46パーセントで、目標値を下回っているものの、平成22年度実績値を上回っています。市民の川や海などの水環境への意識が向上していると考えられることから、今後も継続して市民へ水環境の保全を呼び掛けていくことが重要です。

項目	平成 22 年度 実績値	令和 3 年度 目標値	令和 2 年度 実績値	評価
「節水を心掛けている」と答えた市民の割合	49%	70%	51%	□
「川や海などの水はきれい・非常にきれい」と答えた市民の割合	43%	60%	46%	□

評価の凡例

- ◎：令和 3 年度目標を達成      ○：令和 3 年度目標をほぼ達成      □：平成 22 年度実績値より改善  
－：平成 22 年度実績値とほぼ変化無し      ▲：令和 3 年度目標を未達成      ※：評価できない

#### [検証 2] 市民一人一人が環境に関心を持ち、行動するまち

節電を心掛けている市民の割合は60パーセント、市民1人当たりのごみの発生量は183キログラム/年で、目標値と平成22年度実績値を下回っています。環境保全の取組について市民への呼び掛けを強化していくことが重要です。

項目	平成 22 年度 実績値	令和 3 年度 目標値	令和 2 年度 実績値	評価
「節電を心掛けている」と答えた市民の割合	64%	80%	60%	▲
市民 1 人当たりのごみの発生量	176kg/年	160kg/年	183kg/年	▲

評価の凡例

- ◎：令和 3 年度目標を達成      ○：令和 3 年度目標をほぼ達成      □：平成 22 年度実績値より改善  
－：平成 22 年度実績値とほぼ変化無し      ▲：令和 3 年度目標を未達成      ※：評価できない



### [検証 3] 他の地域にはない出水市独自の環境を大切にすまち

「ツルが越冬する田園風景を今後も守っていききたい」と回答した市民の割合は86パーセントで、目標値をほぼ達成しています。また、「武家屋敷群などの歴史的まちなみを今後も残していききたい」と回答した市民の割合は90パーセントで、目標を達成しています。

ツルが越冬する田園風景や武家屋敷群などの歴史的町並みが市民に大切にされていることが分かります。

項目	平成 22 年度 実績値	令和 3 年度 目標値	令和 2 年度 実績値	評価
「ツルが越冬する田園風景を今後も守っていききたい」と答えた市民の割合	－	90%	86%	○
「武家屋敷群などの歴史的まちなみを今後も残していききたい」と答えた市民の割合	－	90%	90%	◎

評価の凡例

- ◎：令和 3 年度目標を達成                      ○：令和 3 年度目標をほぼ達成                      □：平成 22 年度実績値より改善  
 －：平成 22 年度実績値とほぼ変化無し                      ▲：令和 3 年度目標を未達成                      ※：評価できない

### [検証 4] 人の生活の充実と環境保全を両立するまち

「野生の動物が多い・非常に多い」と回答した市民の割合は53パーセント、本市が主催している自然とのふれあいに関するイベントへの参加人数は3,850人で、目標値を上回っています。市民の自然環境への意識が向上していると考えられることから、今後も継続して市民へ自然環境の保全を呼びかけていくことが重要です。

項目	平成 22 年度 実績値	令和 3 年度 目標値	令和 2 年度 実績値	評価
「野生の動物が多い・非常に多い」と答えた市民の割合	31%	40%	53%	◎
本市が主催している自然とのふれあいに関するイベントへの参加人数	1,480 人	2,000 人	3,850 人	◎

評価の凡例

- ◎：令和 3 年度目標を達成                      ○：令和 3 年度目標をほぼ達成                      □：平成 22 年度実績値より改善  
 －：平成 22 年度実績値とほぼ変化無し                      ▲：令和 3 年度目標を未達成                      ※：評価できない

## [検証 5] 各主体が一体となり、積極的に環境保全活動に取り組むまち

クリーン作戦の参加人数は2,736人、従業員の環境教育を実施している企業の割合は20パーセントで、目標値と平成22年度実績値を下回っています。市民や企業の環境への意識向上や環境活動、環境教育を実施しやすい環境づくりが望まれます。

項目	平成 22 年度 実績値	令和 3 年度 目標値	令和 2 年度 実績値	評価
ふるさと出水クリーン作戦の参加人数	3,253 人	5,000 人	2,736 人 <sup>注</sup>	▲
従業員の環境教育を実施している企業の割合	39%	50%	20%	▲

評価の凡例

◎：令和 3 年度目標を達成

○：令和 3 年度目標をほぼ達成

□：平成 22 年度実績値より改善

－：平成 22 年度実績値とほぼ変化無し

▲：令和 3 年度目標を未達成

※：評価できない

注 令和 2 年度のふるさと出水クリーン作戦は、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止としたため、令和元年度の実績値としました。

## 4 環境上の課題

本市における地域環境の現況把握、地域の意向、旧出水市環境基本計画の検証から、本市の環境上の5つの課題を整理しました。

### [課題 1] 気候変動への対応

地域環境の現況把握
<ul style="list-style-type: none"><li>・本市の年平均気温は 50 年前と比較して約 1.5°C 上昇しており、年間降水量も過去 50 年で増加傾向にある。</li><li>・令和 2 年に「令和 2 年 7 月豪雨」が発生し、大雨特別警報が発令されるとともに広範囲土砂災害等の被害が生じた。</li><li>・過去には平成 9 年の針原地区の土石流災害、平成 18 年の「鹿児島県北部豪雨災害」等の災害が発生している。</li><li>・本市は稲作、畜産をはじめとした農業や沿岸干潟によるノリ養殖漁業等の第一次産業が発達している。</li><li>・本市における年間の電力総使用量は、減少傾向にある。</li><li>・本市における固定価格買取制度の太陽光発電導入状況は、導入件数及び導入容量はともに増加傾向にある。</li></ul>
地域の意向
<p>〈アンケート結果より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・関心のある環境問題として、「地球温暖化」、「気候変動・異常気象」を選択する市民が多い。</li><li>・約 9 割の市民が自然災害を防ぐためには、日頃から地域の環境をよくしていかなければならず、地球温暖化対策を実施する等、地球環境を今後も守っていきたいと考えている。</li><li>・市政への要望として、地球温暖化対策を望む事業所が多い。</li></ul>
旧出水市環境基本計画の検証
<ul style="list-style-type: none"><li>・「節電に心掛けている」と回答した市民の割合（60%）については、目標値（80%）と平成 22 年度実績値（64%）を下回っている。</li></ul>

気候変動による本市で盛んである第一次産業の衰退や大規模な水災害の発生が懸念されており、気候変動は私たちにとっても身近な問題となってきています。市民の生命や暮らしを守るため、カーボンニュートラル※の推進等の気候変動への対策を早急に取り組むことが求められます。

#### ※ カーボンニュートラル

二酸化炭素等の温室効果ガス排出量を実質ゼロ（温室効果ガスの排出量から森林等による吸収量を差し引いた値）にすること。2020 年 10 月に菅義偉内閣総理大臣が「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。

## [課題 2] ごみの発生抑制とリサイクルの推進

地域環境の現況把握
<ul style="list-style-type: none"><li>・本市で発生するごみ（一般廃棄物）については、北薩広域行政事務組合が設置する環境センターやリサイクルセンターで処分されている。</li><li>・市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量（生活ごみ）については、平成 27 年度まで増加傾向にあったが、平成 28 年以降減少している。</li><li>・1 日 1 人当たりのごみ排出量は全国や鹿児島県と比較して少ない。</li><li>・資源ごみは各自治会が維持・管理するリサイクルステーションにおいて 18 種類に分別・収集されている。</li><li>・資源化率は、全国及び鹿児島県と比較して低い。</li></ul>
地域の意向
<p>〈アンケート結果より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リサイクルに協力している市民や買い物の際はマイバッグを利用している市民が多い。</li><li>・多くの市民がリサイクルの推進等、循環社会の構築を今後も進めていきたいと考えており、市政策の要望として、リサイクルの推進やごみの分別収集の徹底を望んでいる。</li><li>・道ばたなどにごみはなく、きれいだと感じている市民は約 4 割となっている。</li><li>・生ごみを自家処理している市民は少ない。</li><li>・ごみの減量化への取組を実施している事業所は約 4 割となっている。</li></ul> <p>〈環境審議会より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生ごみに関する問題が顕在化している。</li></ul>
旧出水市環境基本計画の検証
<ul style="list-style-type: none"><li>・市民 1 人当たりのごみの発生量（183kg/年）については、目標値（160kg/年）と平成 22 年度実績値（176kg/年）を下回っている。</li></ul>



本市のごみ排出量は鹿児島県と比較して少ない傾向にありますが、資源化率は比較的  
低く、リサイクルが十分にされていないといった現状もあります。また、市民の多くが  
リサイクルの推進を望んでおり、今後も引き続きごみの発生抑制や適切な再使用・再生  
利用を進めていくことが求められます。

### [課題 3] 豊かな自然環境の保全

地域環境の現況把握
<ul style="list-style-type: none"><li>・本市は八代海に面し、北部から東部、南部にかけての一带は紫尾山塊をはじめとする山々に囲まれ、山地の間を縫うように米之津川、高尾野川、野田川等の河川が流れている。</li><li>・本市には国指定の特別天然記念物に指定された「鹿児島県のツルおよびその渡来地」があり、毎年多くのツルが越冬のために渡来する。また、ナベヅル等は環境省レッドリストや鹿児島県レッドデータブックに指定されている貴重な種であり、本市は重要な越冬地となっている。なお、ツルが越冬する荒崎地区や東西干拓地の豊かな自然環境を保全し、将来の子供たちに引き継ぐために「ラムサール条約湿地」に登録された。</li><li>・本市には多様な自然環境が存在し、豊富な動植物が生息・生育している。</li><li>・主な都市公園としては、出水市総合運動公園、クレインパークいずみ、東光山公園が挙げられ、紫尾山山頂周辺は川内川流域県立自然公園に指定されている。</li></ul>
地域の意向
<p>〈アンケート結果より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・約 7 割の市民が出水の象徴でもあるツルの生息地として市を挙げて保全に取り組むべきであると考えている。</li><li>・出水市の望ましい環境像について、人と自然との共生を望む市民が多く、約 9 割の市民が動植物の生息・生育域や豊かな自然環境、自然とふれあえる場や機会を保全したいと考えている。</li><li>・約 9 割の市民が外来種のうち生態系に悪影響を与える可能性のあるものは適切に駆除すべきであると考えている。</li><li>・関心のある環境問題として、「身近な自然の減少」や「動植物の減少や種の絶滅」、「生物多様性の保全」等を選択する市民は少ない。</li><li>・日常生活で行っている行動として、「余暇活動の際には、自然を傷つけないように配慮している」や「日頃から身近な自然環境に関心を持っている」を選択する市民は少ない。</li></ul>
旧出水市環境基本計画の検証
<ul style="list-style-type: none"><li>・「ツルが越冬する田園風景を今後も守っていききたい」と答えた市民の割合（86％）については、目標（90％）をほぼ達成している。</li><li>・「野生の動物が多い・非常に多い」と答えた市民の割合（53％）については、目標値（40％）を上回っている。</li></ul>



本市は、ツルをはじめとした多様で豊かな自然環境を有しており、多くの市民が本市の自然環境を保全していきたいと考えています。その一方で、日常生活では自然環境に配慮して行動している市民は少ない状況にあります。本市の特色ある自然環境を保全していくためには、自然環境への理解を深め、ツルの越冬地の保全をはじめとした生物多様性の保全等に取り組むことが求められます。

## [課題 4] 快適な生活環境の確保

地域環境の現況把握
<ul style="list-style-type: none"><li>・過去5年間の調査のうち、光化学オキシダントと海域水質は環境基準を超過しているが、それ以外の大気質や河川水質は全ての年で環境基準を満足している。</li><li>・公害苦情件数は大気汚染に関する苦情が最も多く、近年では増加傾向にある。</li><li>・出水麓地区は、三原小路や豎馬場、諏訪馬場等歴史を感じさせる地名とともに武家屋敷や石垣等の古いまちなみが残されている。</li></ul>
地域の意向
<p>〈アンケート結果より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・約9割の市民が快適な生活環境の形成を今後も進めていきたいと考えており、出水市の望ましい環境像として、「すがすがしい大気環境」や「快適な水環境」、「美しいまちなみ景観や美しい農村環境」を挙げている市民も多い。</li><li>・約5割の市民が他の地域にはない出水市独自の風景を有していると考えており、「ツルの飛び交う平野部の田園風景」や「武家屋敷などの歴史あるまちなみ」は多くの市民に支持されている。</li><li>・環境問題として、市民は「悪臭」や「川や海などの水質汚濁」、事業所は「事業活動による大気汚染・悪臭」や「事業活動による騒音・振動」の関心が高く、市施策への要望として、大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭対策を望む市民や事業所が多い。</li></ul> <p>〈環境審議会より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家畜等による悪臭問題もあるが、出水市は畜産業者が多いことから、産業、経済とバランスをとりながら解決することが望まれる。</li></ul>
旧出水市環境基本計画の検証
<ul style="list-style-type: none"><li>・「節水を心掛けている」と答えた市民の割合（51％）については、目標値（70％）は下回っているが、平成22年度実績値（49％）は上回っている。</li><li>・「川や海などの水はきれい・非常にきれい」と答えた市民の割合（47％）については、目標値（60％）は下回っているが、平成22年度実績値（43％）は上回っている。</li><li>・「ツルが越冬する田園風景を今後も守っていききたい」と答えた市民の割合（86％）については、目標（90％）をほぼ達成している。</li><li>・「武家屋敷群などの歴史的まちなみを今後も残していきたい」と答えた市民の割合（90％）については、目標（90％）を達成している。</li></ul>



本市の生活環境は河川水質等、環境基準を満足している項目もありますが、毎年、大気質や騒音、悪臭等の苦情が寄せられており、引き続き適切な対策を行っていく必要があります。また、本市は田園風景や歴史的町並み等の美しい景観を有しており、市民もこれらの景観の保全を望んでいます。市民から挙げられている公害問題に取り組むとともに、本市ならではの景観を保全し、快適な生活環境を確保することが求められます。

## [課題 5] 環境保全活動と環境に関する情報の充実

地域環境の現況把握
<ul style="list-style-type: none"><li>・本市では環境保全活動に携わっている団体が複数存在し、ごみの減量化やツルの保全等の活動を行っている。</li><li>・本市の多くの保育園、幼稚園、小学校、中学校等では、環境教育、清掃活動、節電等の環境に関する取組を行っている。</li></ul>
地域の意向
<p>〈アンケート結果より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・約 9 割の市民が環境教育や保全活動を今後も進めていきたいと回答しており、約 8 割が子供だけでなく大人向けの環境学習も充実させるべきであると考えている。</li><li>・約 5 割の事業所が環境問題に話し合う機会を既に持っている。</li><li>・環境や省エネについて家族で話し合っている市民や日頃から身近な自然環境に関心を持っている市民は少ない。</li><li>・環境活動に参加したことがある市民は約 3 割となっており、約 4 割の市民が今後の環境保全活動への参加に消極的となっている。</li><li>・住んでいる地域の環境について、「地域コミュニティ(住民相互の交流など)は充実している」と答えた市民は約 4 割となっている。</li><li>・出水市の望ましい環境像として、「SDGs が達成された社会」を選択した割合は最も小さい。</li></ul> <p>〈環境審議会より〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・環境保全の行動につながる市民への意識付けを図る必要がある。</li><li>・若年層の環境に関する意識の低さが懸念される。</li></ul>
旧出水市環境基本計画の検証
<ul style="list-style-type: none"><li>・「本市が主催している自然とのふれあいに関するイベントの参加人数」(3,850 人)については、目標(2,000 人)を達成している。</li><li>・「ふるさと出水クリーン作戦の参加人数」(2,736 人)については、目標値(5,000 人)と平成 22 年度実績値(3,253 人)を下回っている。</li><li>・「従業員の環境教育を実施している企業の割合」(20%)については、目標値(50%)と平成 22 年度実績値(39%)を下回っている。</li></ul>



本市では市民、事業所の環境保全への関心が高まっていますが、環境保全活動への参加に消極的な一面もあります。また、環境に関する適切な情報を求める声もあり、市民の環境保全活動への参加の機会や場の創造、環境に関する適切な情報の共有が求められます。